

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第12集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 11

NAGAMIYA SITE

長宮遺跡第34・36地点

MATSUYAMA SITE

松山遺跡第56地点

NISHINOHARA SITE

西ノ原遺跡第150地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第12集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 11

NAGAMIYA SITE

長宮遺跡第34・36地点

MATSUYAMA SITE

松山遺跡第56地点

NISHINOHARA SITE

西ノ原遺跡第150地点

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることが出来ます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えれば、改めてこの地域の繋がりがや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住みまいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、民間の開発業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会

教育長職務代理者 高山 稔

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、発掘調査4件の報告書である。
2. 民間開発を原因として行なった4ヶ所の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行なった。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行なった。





遺跡名・地点名	委託者	協定期間
長宮遺跡第34地点	宮寺 聖治	平成23年11月2日～平成26年3月31日
長宮遺跡第36地点	橋山 公一	平成23年10月21日～平成26年3月31日
松山遺跡第56地点	水崎 長子	平成23年4月11日～平成26年3月31日
西ノ原遺跡第150地点	株式会社 住協	平成24年2月20日～平成26年3月31日

3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係調査担当者	高崎直成
担当課	生涯学習課文化財保護係	調査担当者	鍋島直久
教育長	矢島秀一 (2010.3.19～2014.3.18)	庶務担当	橋本鶴人
教育長職務代理者	高山 稔 (2014.3.19～2014.3.31)		国分英良
生涯学習部長	高梨真太郎 (2010.4.1～2012.3.31)		柳澤健司
	綾部 誠 (2012.4.1～2013.3.31)		岡 健二
	高山 稔 (2013.4.1～2014.3.31)	発掘調査員補	越村 篤
生涯学習課長兼参事	綾部 誠 (2010.4.1～2012.3.31)	嘱託員	藤牧守絵(2003.4～2012.3.31)
生涯学習課長兼参事	桜井信枝 (2012.4.1～)		配島結華(2012.4.1～2013.3.31)
文化財保護係長	坪田幹男 (2007.4.1～2011.3.31)	臨時的任用職員	高橋京子
	橋本鶴人 (2011.4.1～)		

4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
本文・遺構執筆：鍋島直久、遺物観察表：越村篤、第2・3章出土遺物：笹森健一、文字データ入力：大久保明子
図版作成の一部を(株)東京航業研究所に委託した。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)
会田明、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、国見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井謙、酒井智晴、佐藤啓子、佐藤良博、塩野敏和、鈴木清、高木文夫、田中信、丹治剛、角田史雄、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓吾、堀善之、松尾鉄城、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、和田晋治
埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館、(有)文化財COM、(有)アルケリサーチ、(株)東京航業研究所
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表した。
《発掘調査参加者》(敬称略) 明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、寺岐久子、井上晴江、井上麻美子、白井孝、金子君子、川中ひろみ、菊口繁子、小林こすい、西城満朗子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、森崎忠三、杉本佳久、鈴木勝弘、岡田成美、高員しづ子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝美、山内康代、米田昇三、若林紀美代
《整理作業参加者》(敬称略) 青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平静

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿入の指示は以下のとおりである。
 - (1)縮尺は原則として
遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 印などの詳細図 1:30
土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3 鏡 1:1
 - (2)遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3)遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの版中。
視乱  地山(ローム)  焼土  朱  土器 ● 石器 ★
黒曜石・チャート ▲ 礎 ○
 - (4)土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表す。
 - (5)土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 11 目次

はじめに	i
例 言	ii
凡 例	ii
目 次	iii
挿図目次	iv
表 目 次	iv
写真図版目次	iv
第1章 ふじみ野市の遺跡	1
I ふじみ野市の立地と環境	1
II 市内の遺跡	2
第2章 長宮遺跡第34地点の本調査	5
I 遺跡の立地と環境	5
II 本調査に至る経過と調査の概要	5
III 遺構と遺物	7
第3章 長宮遺跡第36地点の本調査	21
I 本調査に至る経過と調査の概要	21
II 遺構と遺物	21
第4章 松山遺跡第56地点の本調査	34
I 遺跡の立地と環境	34
II 本調査に至る経過と調査の概要	36
III 遺構と遺物	36
第5章 西ノ原遺跡第150地点の本調査	40
I 遺跡の立地と環境	40
II 本調査に至る経過と調査の概要	40
III 遺構と遺物	44
第6章 まとめ	52
写真図版	53
抄 録	73

挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	1	第22図	長宮道跡第36地点溝①(1/100)	28
第2図	ふじみ野市道跡分布図(1/30,000)	3	第23図	長宮道跡第36地点出土遺物①(1/4)	30
第3図	長宮道跡の地形と調査区(1/4,000)	5	第24図	長宮道跡第36地点出土遺物②(1/4・2/3・1/1)	31
第4図	長宮道跡第34地点遺構配置図(1/300)	7	第25図	長宮道跡第36地点出土遺物③(1/6)	32
第5図	長宮道跡第34地点J9号住居跡(1/60)	8	第26図	長宮道跡第36地点出土遺物④(1/6)	33
第6図	長宮道跡第34地点J9号住居跡遺物出土状況図(1/60)、埴(1/30)	9	第27図	松山道跡の地形と調査区(1/4,000)	34
第7図	長宮道跡第34地点J9号住居跡出土遺物①(1/4)	11	第28図	松山道跡第56・57地点遺構配置図(1/300)	37
第8図	長宮道跡第34地点J9号住居跡出土遺物②(1/4)	12	第29図	松山道跡第56地点土坑1遺物出土状況図(1/60)	37
第9図	長宮道跡第34地点埴穴①・土坑①(1/60)	14	第30図	松山道跡第56地点掘立柱建物跡・ピット・溝(1/60)	38
第10図	長宮道跡第34地点埴穴②・井戸①・落とし穴(1/60)	15	第31図	松山道跡第56地点出土遺物(1/4・1/2)	39
第11図	長宮道跡第34地点井戸②・土坑②・ピット①(1/60)	16	第32図	西ノ原道跡の地形と調査区(1/4,000)	40
第12図	長宮道跡第34地点土坑③・ピット②(1/60)	17	第33図	西ノ原道跡道構分布図(1/2,000)	42
第13図	長宮道跡第34地点溝(1/80)、井戸①(1/60)	18	第34図	西ノ原道跡第150地点遺構配置図(1/300)、189号住居跡(1/60)、埴(1/30)	46
第14図	長宮道跡第34地点出土遺物①(1/4)	19	第35図	西ノ原道跡第150地点190号住居跡遺物出土状況図(1/60)、埴(1/30)	47
第15図	長宮道跡第34地点出土遺物②(1/4・2/3)	20	第36図	西ノ原道跡第150地点191号住居跡・ピット(1/60)、埋裏(1/30)	48
第16図	長宮道跡第36地点遺構配置図(1/300)	21	第37図	西ノ原道跡第150地点埴・集石土坑1・2(1/30)	49
第17図	長宮道跡第36地点埴土(1/30)、井戸①(1/60)	23	第38図	西ノ原道跡第150地点189・190号住居跡出土遺物①(1/4)	50
第18図	長宮道跡第36地点井戸②(1/60)	24	第39図	西ノ原道跡第150地点191号住居跡集石土坑・遺構外出土遺物②(1/4)	51
第19図	長宮道跡第36地点土坑(1/60)	25			
第20図	長宮道跡第36地点ピット(1/60)	26			
第21図	長宮道跡第36地点溝①(1/100)	27			

表 目 次

第1表	ふじみ野市道跡一覧表	2	第9表	長宮道跡第36地点溝一覧表	22
第2表	長宮道跡調査一覧表	6	第10表	長宮道跡第36地点出土遺物観察表	29
第3表	長宮道跡第34地点J9号住居跡ピット一覧表	12	第11表	長宮道跡第36地点出土板碑観察表	33
第4表	長宮道跡第34地点埴穴一覧表	13	第12表	松山道跡調査一覧表	35
第5表	長宮道跡第34地点井戸・土坑・ピット一覧表	13	第13表	松山道跡第56地点土坑・ピット一覧表	39
第6表	長宮道跡第34地点溝一覧表	18	第14表	西ノ原道跡調査一覧表	41
第7表	長宮道跡第34地点出土遺物観察表	20	第15表	西ノ原道跡住居跡一覧表	43
第8表	長宮道跡第36地点井戸・土坑・ピット一覧表	22	第16表	西ノ原道跡189～191号住居跡ピット一覧表	48
			第17表	西ノ原道跡第150地点集石土坑出土観察表	48

写真図版目次

写真図版1	長宮道跡第34地点(1)	53	写真図版11	長宮道跡第36地点(4)	63
写真図版2	長宮道跡第34地点(2)	54	写真図版12	長宮道跡第36地点(5)	64
写真図版3	長宮道跡第34地点(3)	55	写真図版13	松山道跡第56地点(1)	65
写真図版4	長宮道跡第34地点(4)	56	写真図版14	松山道跡第56地点(2)	66
写真図版5	長宮道跡第34地点(5)	57	写真図版15	西ノ原道跡第150地点(1)	67
写真図版6	長宮道跡第34地点(6)	58	写真図版16	西ノ原道跡第150地点(2)	68
写真図版7	長宮道跡第34地点(7)	59	写真図版17	西ノ原道跡第150地点(3)	69
写真図版8	長宮道跡第36地点(1)	60	写真図版18	西ノ原道跡第150地点(4)	70
写真図版9	長宮道跡第36地点(2)	61	写真図版19	長宮道跡第34・36地点試掘調査	71
写真図版10	長宮道跡第36地点(3)	62	写真図版20	松山道跡第56地点・西ノ原道跡第150地点試掘調査	72

第1章 ふじみ野市の遺跡

1 ふじみ野市の立地と環境

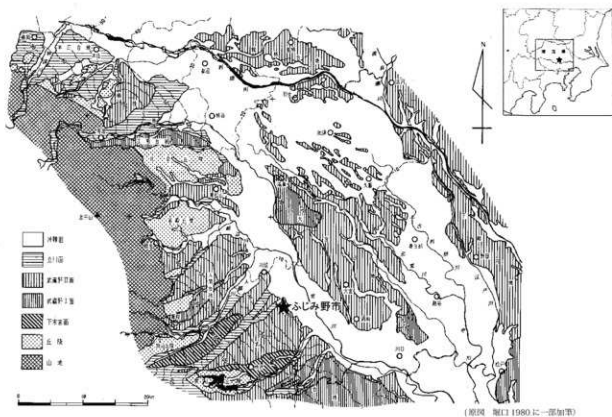
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線と福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田圃風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を扇状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していることがある。この緩斜面はもとも低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地

（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、雨水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫してきた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



(原図 昭和1980年一部加筆)

第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤岡江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が

丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

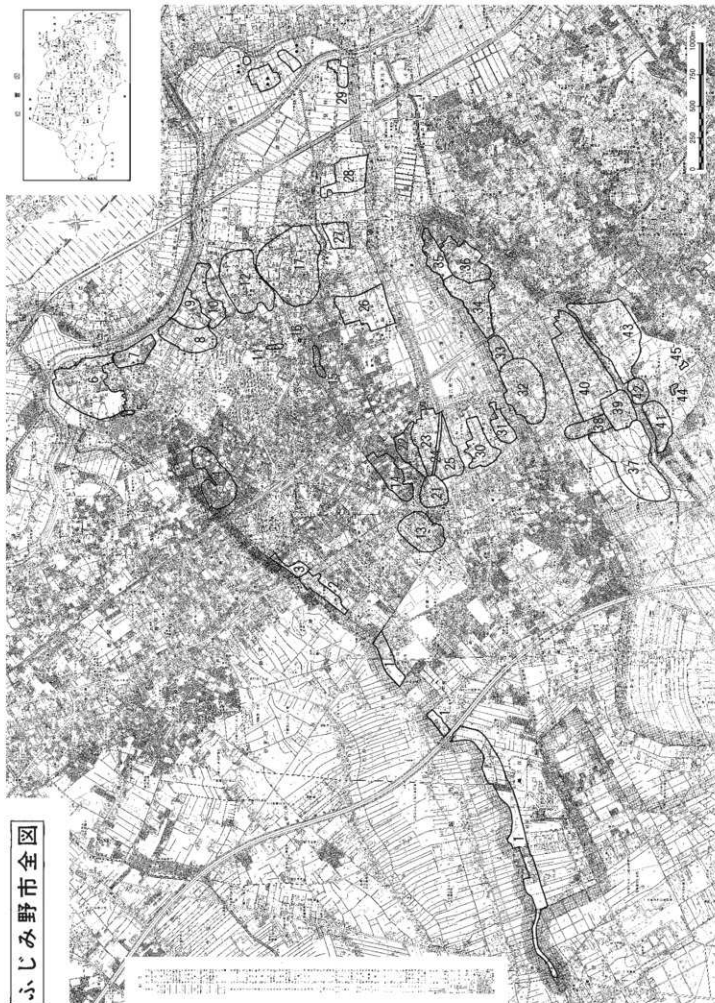
川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ岡遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出してゐる。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保塚跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎遺跡	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群(古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代・古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	福山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神塚遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の跡跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保塚跡遺跡	中世の堀跡	30-006

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の堀跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	笹間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	淨禪寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏御殿跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	木村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、堀跡遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔堀	中世の散布地	30-027



第2図 ふじ野市遺跡分布図 (1/30,000)

第2章 長宮遺跡第34地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出した武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

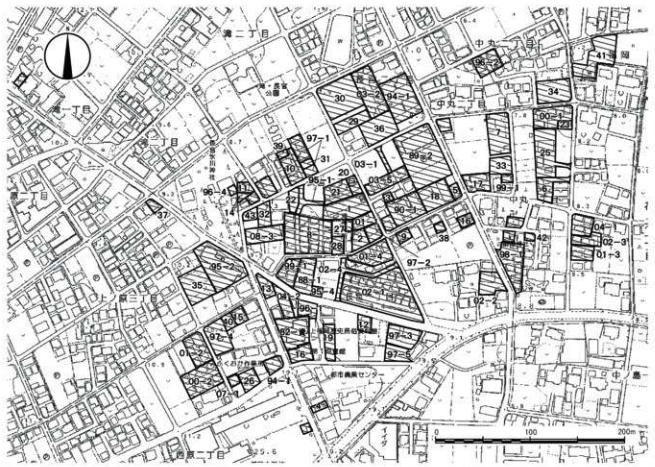
遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる

m遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2013年12月現在46ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年6月2日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年6月27日から7月16日まで行った。幅約1.5mのトレンチ5本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、縄文時代早期の竈穴や前期の住居跡、土坑、ピット、近世以降の井戸や溝等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは、近



第3図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 2 表 長宮遺跡調査一覧表

地点	層	期	調査期間	1 次記録調査者	面積(m ²)	調査目的	確認された遺構・遺物	報告の名称
1層	調査2-1-2	3	1973.7.20	1973.7.20	1500	調査開始	溝3、土坑4坑、柱穴	溝3【調査報告】長宮遺跡
2層	調査2-1-27	5	1973.4.25	5-5	220	調査開始	溝2、土坑1、石坑、板敷、礎石、土坑、陶器、瓦葺	溝2【調査報告】長宮遺跡
3層	調査2-6-11	11	1974.7.24	30	311	調査開始	土坑1	溝1【調査報告】長宮遺跡
4層	調査2-1-14	4	1973.10.8	9	37	住居跡1	土坑跡、溝渠跡、板敷跡	溝1【調査報告】長宮遺跡
5層	調査2-5-2	2	1973.4.18	20	150	調査開始	溝文土層跡1跡、溝文土層跡	溝1【調査報告】長宮遺跡
6層	調査2-4-13	3	1973.4.13	30	375	調査開始	溝文土層跡1跡、溝文土層跡	溝1【調査報告】長宮遺跡
7層	調査1-3-6	6	1965.5.13	6	969	溝、溝跡1跡、溝文土層、中世山崎層跡	溝跡1	溝跡1【調査報告】長宮遺跡
8層	調査2-1-10	13	1965.9.8	10	1900	中世溝、溝跡1跡、土坑、板敷、礎石、陶器、土坑、溝渠	溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
9層	調査1-4-10	10	1965.9.21	30	200	溝文土層跡1跡、中世山崎層跡	溝文土層跡1跡、中世山崎層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
10層	調査2-2-10	10	1965.7.30	15	493	溝、土坑跡、溝文土層跡1跡、溝文土層跡、中世山崎層跡、陶器	溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
11層	調査2-2-10	10	1965.12.16	22	717	溝、溝文土層跡1跡、中世山崎層跡	溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
12層	調査1-2-7	7	1961.5.26	30	160	板敷土層跡	溝1、中世山崎層跡、溝文土層跡	溝跡1跡
13層	調査1-2-13	13	1961.6.2	11	253	板敷土層跡	溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
14層	調査1-2-12	12	1961.5.24	10	1000	溝跡1跡及び板敷跡	溝2	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
15層	調査2-5-9	9	1965.10.22	31	116	板敷土層跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
16層	調査1-3-11	11	1966.2.8	15	400	中世溝跡	溝2	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
17層	調査1-4-7	7	1966.6.9	17	732	板敷土層跡	溝文土層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
17層	調査1-3-11	11	1966.7.18	30	654	溝跡1跡	溝文土層跡、溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
18層	調査1-3-9	9	1966.8.13	96	657	中世溝跡	溝文土層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
19層(1)	調査1-3-9	9	1969.9.20	30	443	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
19層(2)	調査2-5-19	19	1969.11.14	24	1779	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
20層	調査2-5-4	4	1969.11.27	20	619	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
21層	調査2-5-3	3	1969.10.8	12	923	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
19層	調査2-2-21	21	1965.12.17	1964.12.22	467	板敷跡	溝文土層跡1跡、溝文土層跡、溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
23層	調査2-4-20	20	1964.1.10	26	1502	住居跡跡	溝2、土坑1跡、中世山崎層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
24層	調査2-5-1	1	1964.1.25	8	314	中世山崎層跡及び中世溝跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡	
25層	調査2-1-22	22	1964.1.28	19	170	板敷土層跡	溝文土層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
21層	調査2-1-63	63	1964.1.19	8	361	板敷土層跡	溝文土層跡、溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
25層(1)	調査2-1-20	20	1965.9.19	20	421	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
25層(2)	上層部、1-6層4層	4	1965.10.4	23	1329	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
26層	調査2-1-60	60	1965.10.25	25	260	住居跡跡	溝文土層跡1跡、溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
27層	調査2-1-60	60	1965.10.27	11	268	住居跡跡	溝文土層跡1跡、溝1跡、陶器、板敷跡1跡、中世山崎層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
26層(4)	調査1-3-13	13	1966.12.12	26	120	板敷跡	溝文土層跡1跡、溝1跡、陶器、板敷跡1跡、中世山崎層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
26層(1)	調査1-2-18	18	1966.7.12	18	349	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
26層(2)	中世2-2-9跡3層	3	1966.7.17	17	569	住居跡跡	溝1	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
26層(3)	調査1-2-4	4	1967.1.16	21	764	住居跡跡	溝1跡、溝文土層跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
26層(4)	調査2-2-4	4	1967.2.24	20	205	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
27層(1)	調査2-3-3	3	1967.4.6	8	611	溝文土層跡	溝1跡(溝跡1跡)	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
27層(2)	調査2-1-2	2	1967.4.9	11	299	板敷土層跡	土坑1跡(溝跡1跡)	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
27層(3)	調査1-2-36	37	1967.4.15	30	423	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
27層(4)	調査2-3-6	6	1967.7.18	21	733	住居跡跡	溝文土層跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
28層	調査1-2-4	4	1968.11.24	27	1074	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層	調査1-3-12	12	1969.11.8	16	88	住居跡跡	溝1跡、溝文土層跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層	調査1-4-7	7	2000.7.11	11	932	住居跡跡(土坑跡)	溝文土層跡(板敷土層跡)、土坑1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層	調査2-4-18	18	2000.7.17	24	1351	住居跡跡(土坑跡)	溝文土層跡(板敷土層跡)、土坑1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(3)	調査2-1-17	17	2000.8.21	23	687	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(4)	調査1-3-34A	34	2001.1.17	23	1119	住居跡跡(土坑跡)	溝文土層跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
33層	調査1-4-7	7	2001.7.18	26	137	板敷土層跡	土坑跡(溝文土層跡)、溝跡1跡、溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
31層(1)	調査2-1-9	9	2001.4.20	24	330	板敷土層跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
31層(2)	調査2-4-7	7	2001.8.20	4	434	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
31層(3)	調査1-1-9	9	2001.8.7	24	512	住居跡跡	溝跡1跡(溝文土層跡)、溝文土層跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
31層(4)	調査2-8-6	6	2001.11.6	100	100	板敷土層跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(1)	調査1-3-2	2	2002.6.11	11	336	住居跡跡(土坑跡)	住居跡跡【調査報告】長宮遺跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(2)	調査1-4-3	3	2002.6.20	7	675	住居跡跡	住居跡跡、溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(3)	調査1-1-6	6	2002.9.11	11	622	住居跡跡(土坑跡)	溝跡1跡(溝文土層跡)	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(4)	調査1-3-31	31	2002.9.20	26	362	板敷土層跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
24層	調査1-4-3	3	2003.1.30	2	72	住居跡跡	住居跡跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(5)	調査2-5-8	8	2003.1.10	12	627	住居跡跡	住居跡跡【調査報告】長宮遺跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(6)	調査2-5-10	10	2003.1.16	16	197	住居跡跡	住居跡跡【調査報告】長宮遺跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(7)	調査2-4-7	7	2003.12.16	18	1123	住居跡跡	溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(8)	調査1-1-11	11	2004.11.26	8	489	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層(9)	調査1-2-15	15	2004.12.7	10	466	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
25層	調査1-4-8	8	2005.7.19	18	1161	住居跡跡	溝文土層跡、住居跡跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
27層	調査2-5-20	20	2007.3.28	19	594	板敷土層跡	溝文土層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
27層	調査2-1-4	4	2007.5.30	31	175	板敷土層跡	溝、住居跡跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
28層	調査2-1-8	8	2007.5.31	63	183	板敷土層跡	溝文土層跡1跡、土坑1跡、土坑13坑、溝文土層跡、石葺、中世山崎層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
土層跡	調査2-3-31	31	2007.10.16	120	120	板敷土層跡	溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
29層	調査2-4-60	60	2007.11.20	12	413	住居跡跡	土坑1跡、溝跡1跡、溝跡1跡、溝跡1跡、溝文土層跡、中世山崎層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
30層	調査2-4-6	6	2009.9.28	11	1362	老人福祉施設	老人福祉施設	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
31層	調査2-1-16	16	2010.11.5	25	271	住居跡跡	中世山崎土層跡、土坑跡14坑、溝1跡、溝文土層跡、中世山崎層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
32層	調査1-3-2	2	2011.5.19	5	534	住居跡跡	溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
34層	調査2-2-246	246	2011.6.27	7	914	住居跡跡	溝文土層跡早期印文、前期山崎土層跡1跡、近世溝、溝文土層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
35層	調査2-1-4	4	2011.9.9	27	11578	住居跡跡	溝文土層跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
36層	調査2-4-3	3	2011.10.17	17	1051	板敷土層跡	溝文土層跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
37層	上層部	6	2011.11.8	10	98	住居跡跡	溝文土層跡1跡、土坑跡15坑、溝跡1跡、溝跡1跡、溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
38層	調査1-4-27	27	2011.11.24	26	101	住居跡跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
39層	調査2-3-23	23	2012.1.1	13	13054	板敷土層跡	溝1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
40層	調査2-5-70	70	2012.1.16	16	201	板敷土層跡	溝文土層跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡
41層	埋蔵物A層 調査1-3-3、39層-5、39層-6	3	2012.4.17	5	1352.6	住居跡跡	溝跡1跡、溝文土層跡1跡、土坑跡12坑、溝跡1跡、溝跡1跡、溝跡1跡、溝跡1跡	溝跡1跡【調査報告】長宮遺跡

※層：土層跡と板敷土層跡は住居跡調査時調査。土層跡：土層跡と溝跡調査報告書。溝跡：土層跡と溝跡調査報告書。溝跡：土層跡と溝跡調査報告書。

世以降の時期で約 80 cm、縄文時代では約 120 cmである。しかし造成のため表土層の削平が約 60 cm 行われ、遺跡への影響が避けられないことから原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。ただし南東と北西隅の二区画と通路（駐車場部分）については、雨水等の浸透トレンチの設計変更などにより工事立会とし、本調査の対象区域から除外した。

本調査は遺跡の確認された区画を、2011年11月2日から12月1日まで、重機により除去し人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代早期が穴7基、前期住居跡1軒、落とし穴1基、土坑11基、ピット25基、近世以降の井戸9基、溝3本などある。遺物は縄文時代早期から前期の土器、石器、近世以降の陶磁器などである。

III 遺構と遺物

(1) J 9号住居跡

【位置】長宮遺跡の縄文時代前期の集落配置でみると、北側に位置する。今回の調査区では中央部の南端に位置する。

【形状】住居跡の北西隅の約 1/4 を検出したため、全体の形状は不明である。

検出部の平面形態は隅丸方形を呈し、長軸 (3.95)

m、短軸 (3.3) m、確認面からの深さ 0.92 m である。

住居跡の床面直上には炭化材・炭化物層が広範囲に広がり、上層には焼土層が堆積する。消失堅穴建物の可能性も考えられる。

【お】住居の北側に2ヶ所のおが位置する。平面形態は不整楕円形で一部が重複している。北側のおは南北 (52) cm、東西 68 cm、深さ 8.6 cm である。南側のおは南北 70 cm、東西 51 cm、深さ 9.6 cm である。

【床・壁】床面は平坦で上層消失時に被熱した焼土面が広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

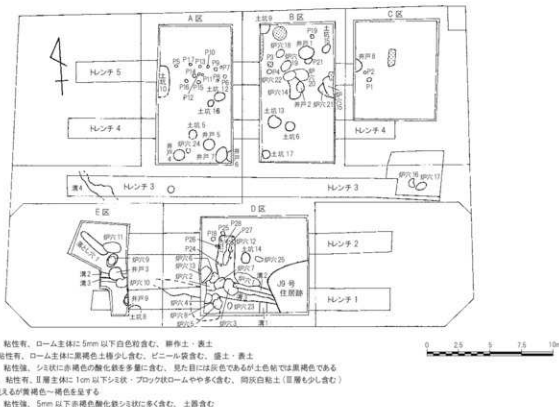
【ピット】主柱穴は P11・13・14・16・17 である。壁際の壁柱穴は 23 基検出した。P12・15・24・25 は主柱穴か壁柱穴か不明である。P1・26、P5・30、P10・22、P11・16 は住居の拡張や建て替えに伴う新旧の柱穴とみられる。

【遺物出土状況】出土遺物は床面直上の炭化物層と焼土層のさらに上層の覆土層から集中して出土する。

【時期】時期は出土土器から間山1期である。

【出土遺物】(第7図・8図)

1 は、二股波頂部の土器。風化が激しいが、口縁部文様は、鋸歯状に平行に沈線を描き、沈線を梯子状に埋めている。鋸歯状文間は、沈線で溝巻きと半円を



第4図 長宮遺跡第34地点遺構配置図 (1/300)

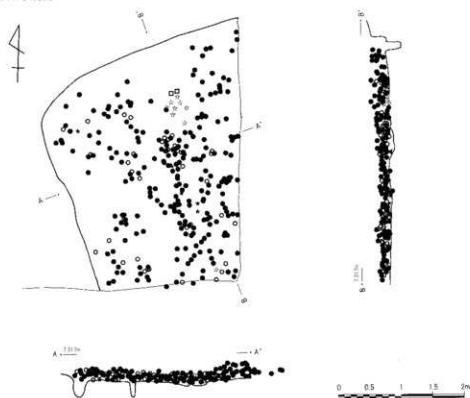
加飾。口縁部文様帯と胴部文様帯の境には、梯子状沈線でご区画している。胴部文様は末端還付を多段に施す。2は、1/4程現存。波状口縁の土器。波頂部破片とそれ以下の破片は接合しないので、復元図に示した器形は実際は口縁部文様帯が短くなるかもしれない。口唇部には三角形状の粘土の貼付、波頂部に刻みを入

れた楕円形の貼付文を付ける。口縁部文様は幅7~8mmの半載竹筥による平行沈線で、始点や交差点に円形貼付文が付く。胴部縄文はLRの末端還付(以下ループ文という)文を4段施し(多段ループ文)、その下にはループの0段3条のLRとRLの斜縄文で羽状縄文帯、その下にはループの0段3条のLRとRLを多

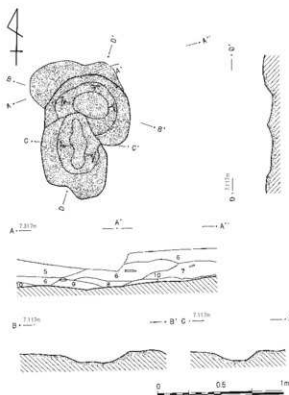


第5図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡(1/60)

J9号住居跡遺物出土状況図



炉



J9号住居跡

- I a コーム主体の盛土
- I b 灰土
- II a 灰土層がVの黒褐色土
- II b コーム層がVの黒褐色土
- 0 住居層土

1. 黒褐色土 粘り強、粘性強。II a と比べ色調に褐色味が有り、やや明るめ、シミ状の灰土と褐色の3mm以下ローム粒を中々多く含む
2. 黒灰色土 粘り強、粘性強。4層に於て、5mm以下白色粘土・炭化物・焼土を多く含む、灰土粘土を食む点で上層の影響を受けている
3. 灰黒色土 粘り強、粘性強。シミ状に灰土粘土を多く含む、2mm以下ローム粒や中々、5mm以下焼土・炭化物少し含む
4. 白色粘土 粘り強、粘性強。3cm以下炭化物を多く含む2~3cm厚黒褐色土を挟む、腐褐色の酸化土が目立つ
5. 黒褐色土 粘り強、粘性強。3mm以下ローム粒を多く、5~20mmロームブロック・5mm以下炭化物少し含む
6. 黒褐色土 粘り強、粘性強。上層より黒色味強い、3mm以下ローム粒や中々(3層より少ない)、5~10mmロームブロック・5~20mm炭化物少し含む
7. 黒褐色土 粘り強、粘性強。主体の土は6層に似る、大きめの5mm以下ローム粒多、5~40mmロームブロック・5mm以下焼土・5~20mm炭化物少し含む
8. 黒褐色土 粘り強、粘性強。シルト質の腐褐色焼土主体、シミ状に黒褐色土を含む、炉の層上ではない
9. 黒褐色土 粘り強、粘性強。5~10mmロームブロック・3mm以下ローム粒を多く、3~10mm焼土を中々多く含む、炉の層上。小さなロームブロックを多く含むのは、ビツの層上と類似
10. 黒色土 粘り強、粘性強。炭化物を多く含む、炭化物由来と思われる黒色土主体、5mm以下ローム粒・焼土や中々含む
11. 黒褐色土 粘り強、粘性強。2mm以下ローム粒・焼土少し含む
12. 黒色土 粘り強、粘性強。10層に似る、シミ状に2mm以下ローム粒・焼土少し含む
13. 黒褐色土 粘り強、粘性強。5mm以下ローム粒多く含む
ビツ
1. 黒褐色土 粘り強、粘性強。3mm以下焼土・炭化物多く含む
2. 黒褐色土 粘り強、粘性強。やや灰色味が有り、粘性強い
3. 黒褐色土 粘り強、粘性強。黒色味強い、5mm以下ローム粒や中々含む
4. 黄灰色土 粘り強、粘性強。5mm以下ローム粒を多く、5mm大炭化物少し
5. 黄灰色土 粘り強、粘性強。シミ状に5mm以下ローム粒少し含む
6. 黄灰色土 粘り強、粘性強。2cm以下ロームブロック・粒多く含む
7. 黄灰色土 粘り強、粘性強。粘り弱め、シミ状に5mm以下ローム粒少しや中々含む

第6図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)

段化して施す。上からはほぼ等間隔で、多段ループ文帯＋羽状縄文帯＋多段ループ文帯を構成している。

3は、1/4現存。4単位波状で、頂点直下に楕円形の貼付文が付く。口唇部には波頂部両脇に3個の粘土粒を加え、口縁部文様は幅6mmの半載竹管による平行沈線で鋸歯文様がつけられ、その直下に5～6段の多段ループ文と、先端ループにしたLRとRLの斜縄文による羽状縄文帯、幅6mmのコンパス文、上段と対になるようにRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、上段と連続的に対応した先端ループのRLとLRの羽状縄文帯が施される。およそループ文で区画された等間隔の文様帯からなる。

4は、約1/4現存。平線の土器。口唇部には4個の小突起、その直下には円形の貼付。上から順に、先端ループのRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、4から5段の多段ループ文帯、先端ループのRLとLRの斜縄文による羽状縄文帯、8から9段の多段ループ文帯で構成される。上半は区画された各文様帯は等間隔で、図示した最下段の文様帯が他の文様帯の倍の間隔である。

5は、1/5現存。口縁部文様帯には、幅6mmの肉厚の半載竹管による平行線で集合沈線の鋸歯文を構成し円形の貼付文を付ける。その下、縄文帯はいずれも端末ループを上にして斜縄文で羽状縄文帯で構成する。上下の羽状縄文帯が対応する菱形縄文帯になるのは、図示した最下段のみである。菱形縄文となるのを避けているようにも思われる。3・4もそうなのだが、縄文帯がループ文やコンパス文で区画され、または多段ループ文帯によって、菱形縄文となるのを回避しているのではないかと。

6は幅4mmの半載竹管で平行線を引き、梯子状に沈線を描き、その間を縦いへうで細かい刻み状に加えたもの。7も円形添付文を加え、半載竹管で平行線の文様を加えたもの。8は、比較的大きい円形の添付文、9は口縁部をループ文を施し、円形の添付文を付けたもの。10は半載竹管により鋸歯文に鋸歯状の起点に先端の尖る円形貼付。正反の合の縄文を施す。11は半載竹管によるかまぼこ状の爪形で鋸歯文を描いたもの。

12は、半載竹管の工具による集合沈線で鋸歯文を描き、鋸歯文の間を半円形の文様を交互に充填したものの。胴部文様帯の境には波状の文様。13は半載竹管による集合沈線を鋸歯文とし、その間を半載竹管を器

面に垂直に押したもの。14は、端末ループを上にして0段3条のLRとRLで羽状縄文。直下に多段ループ文を施す。補修孔が器面表面よりあげられている。

15は、胴部下半の破片で風化が激しい。胴下半部に端末ループを上にして1段ずつ施文して7～8段の多段化したものである。コンパス文を加えさらに0段3条のRLの端末ループを多段化したもの。その下にはコンパス文がある。16は15の同一破片か。図示した左側に補修孔がある。コンパス文の間に多段化したループ文で最下段にRLとLRの結節第1種の羽状縄文が施される。17は、器厚が5mm程度で薄い。4mm程度の白色の小砂利（石英）を含み、白色の砂を多量に含む。図示上半部は、細いRLとLRの縦回転による羽状縄文が施され、下半部には太いRLの端末ループの多段化がうかがわれる。

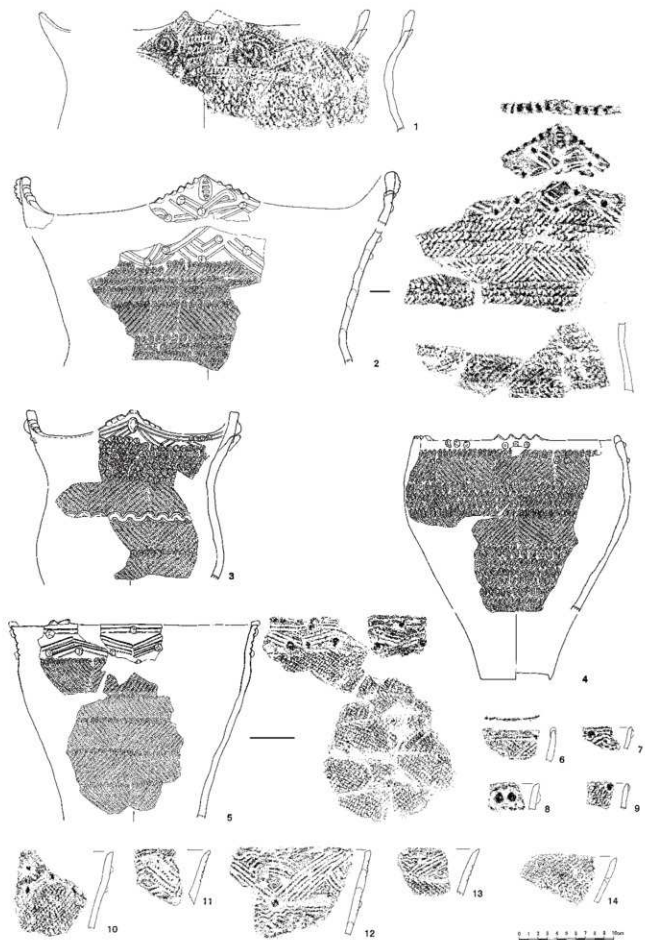
18は、LRとRLによる結節第1種の羽状縄文。19は、Lの無節の斜縄文で半載竹管によるコンパス文を施文。20～23は0段3条で菱形縄文になるもので、いずれも0段3条のうち1本は細い。同一個体ではない。20・21は第1種結束、くびれ部に端末ループ文を施文。23には結束部の反対の原体端末を1mmの紐で縛った回転痕跡がある。

24と25は、正反の合による異条斜縄文。26と27は0段による組紐。28は、土器破片を利用した円形土製品で、文様はみられない。

29～33は底部の破片。29は、0段3条のRLと0段2条LRを図示のように交互に羽状縄文としたものである。端末ループ文で区画している。30は風化が著しいがループ文を多段化して底部端まで施したもの。31は、正反の合の縄を菱形文として底部端まで施した。32は0段3条のLRとRLで羽状縄文。33は、0段3条の原体で羽状縄文を造るが、細い紐で結束部が横位に付いているものと思われる。胎土には白色の砂が混じり内面と底部底は良好に研磨されている。

34～38はループ文やコンパス文がみられないもの。34は、無節RLと単節RLによる菱形縄文で、RLは縦回転、RLは横回転により菱形縄文を構成する。補修孔がつく。35は単節RLと無節LRによる結束第1種による羽状縄文である。36・37は単節LRとRLによる羽状縄文で36は接合箇所が下半に上半の粘土が重なり段をなす。38には胎土に白色の砂が多量に混じる。

J9号住居跡出土土器は、全て胎土に繊維を含む。

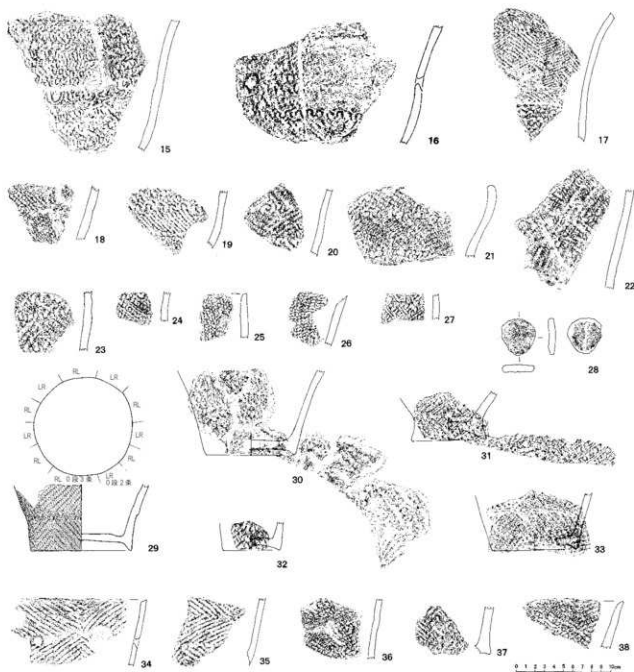


第7図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物① (1/4)

第3表 長宮遺跡第34地点J9号住居跡ピット一覧表(単位 cm)

No.	平面的形	横断面的形	直径	深さ	備考
P1	楕円形	26 × 15	4 × 3	36.4	
P2	円形	21 × 22	7 × 6	32.5	
P3	円形	18 × 15	5 × 4	30.5	
P4	楕円形	36 × 24	11 × 8	66.4	
P5	半円	20 × 21	7 × 6	34.8	
P6	円形	32 × 26	9 × 8	31.2	
P7	半円	(23) × 21	4 × 3	41.2	
P8	楕円形	35 × 25	3 × 3	51.2	
P9	ひょうたん形	35 × 22	12 × 9	19.5	
P10	楕円形	25 × 21	6 × 3	34.4	
P11	円形	26 × 20	4 × 2	70.8	
P12	円形	28 × 24	16 × 14	33.9	
P13	円形	17 × 12	11 × 6	57.9	
P14	円形	16 × 14	5 × 5	52.2	
P15	半円	18 × (10)	6 × 3	26.3	
P16	円形	16 × 15	8 × 8	58.3	

No.	平面的形	横断面的形	直径	深さ	備考
P17	半円	15 × 10	5 × 4	45.8	
P18	円形	12 × 11	5 × 2	55.1	
P19	円形	15 × 10	5 × 3	20.2	
P20	半円	16 × (8)	—	45.5	
P21	半円	(16) × 12	3 × 3	20.5	
P22	円形	17 × 14	14 × 9	38.8	
P23	円形	20 × 17	5 × 5	30.5	
P24	円形	12 × 11	3 × 3	24.2	
P25	円形	13 × 10	3 × 2	26.6	
P26	半円	20 × (12)	9 × 7	34.4	
P27	楕円形	16 × 11	4 × 2	17.8	
P28	円形	14 × 13	6 × 2	43.1	
P29	円形	25 × 16	8 × 4	21.1	
P30	円形	21 × 18	6 × 2	22.1	
P31	半円	(16) × 15	5 × 4	24.9	



第8図 長宮遺跡第34地点J9号住居跡出土遺物②(1/4)

遺物の時期については1～33は関山式I、34～38は関山式から黒浜式のものと思われる。(笹森健一)

(2) 炉穴

炉穴は、C区を除く各調査区とトレンチ3から15基検出した。特にB・D・E区に集中する。燃焼部の焼土範囲の他に、通称「足場」と呼ばれる窪み等のあるものや、炉穴12では周囲に小ピットを巡らせる。詳細は第4表のとおりである。

(3) 落とし穴

落とし穴はE区で検出した。炉穴11と重複し、落とし穴が古い。平面形態は長楕円形を呈し、確認面径250×50cm、底径266×22cm、深さ89cmである。

(4) 井戸

井戸は9基検出した。平面形態はほぼ円形で素掘りである。覆土層の観察から中近世以降のものと思われる。詳細は第5表のとおりである。

(5) 土坑

土坑は11基検出した。土坑1・2は炉穴14・15に、土坑3・7は井戸8・9に変更し、土坑4・11は欠番である。詳細は、第5表のとおりである。

(6) ビット

ビットは31基検出した。ビット20は土坑15にビット22は土坑16、ビット17は土坑23に変更した。時期については縄文時代以降とみられるが不明である。詳細は第5表のとおりである。

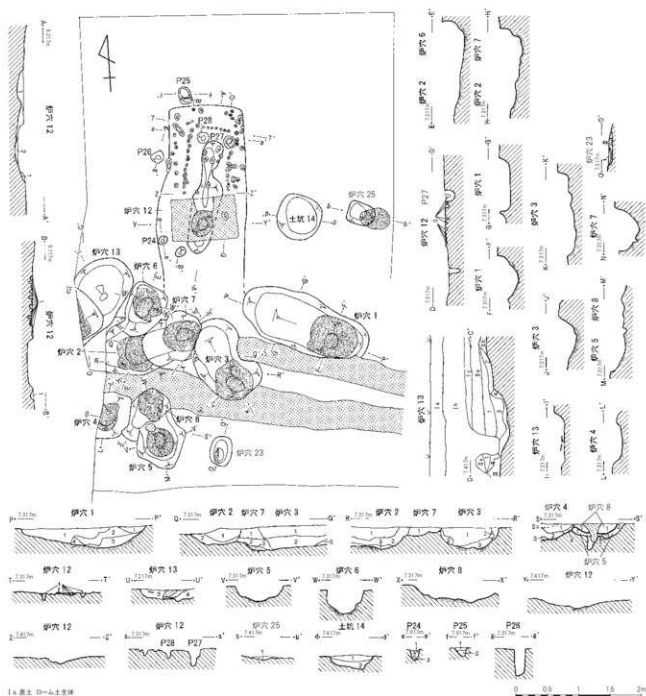
第4表 長宮遺跡第34地点炉穴一覧表(単位cm)

炉	平面形態	確認面径	直径	深さ	備注	遺物
炉穴1	楕円形	210×85	24×19	34.5	37×61	
炉穴2	円形	75×71	145×28	18.8	58×164	
炉穴3	O ₂ 形火盆	134×80	31×20	32.2	58×58	
炉穴4	円形	72×67	37×20	22.2	45×28	
炉穴5	円形	81×70	24×15	25.2	48×43	
炉穴6	六角	86×80	38×22	38.3	55×43	
炉穴7	O ₂ 形火盆	100×72	28×19	33.8	60×48	
炉穴8	円形	90×67	52×40	21.3	58×40	
炉穴9	楕円形	81×64	16×15	25	34×27	
炉穴10	円形	86×68	177×55	18.7	43×18	
炉穴11	楕円形	150×77	39×21	27.4	42×35	
炉穴12	O ₂ 形火盆	180×81	18×17	68	41×28	
炉穴13	円形	116×95	68×26	17.5	55×15	
炉穴14	楕円形	173×88	117×42	37.3	38×26	粘土板1
炉穴15	円形	180×88	170×48	39.5	41×30	粘土板2
炉穴16	円形	68×65	33×23	8.1	-	磁土1
炉穴17	楕円形	98×54	40×28	13	-	磁土2
炉穴18	楕円形	76×55	65×43	6.8	29×20	磁土3
炉穴19	楕円形	100×73	30×7	53.9	24×15	磁土4
炉穴20	円形	110×99	85×19	18.7	43×28	磁土5
炉穴21	円形	110×104	141×130	20	33×25	磁土6
炉穴22	楕円形	81×57	65×46	30.4	26×15	磁土7
炉穴23	楕円形	47×34	20×15	7.8	18×17	磁土8
炉穴24	円形	48×38	18×12	5.4	12×9	磁土9
炉穴25	円形	68×35	25×23	4.8	48×34	磁土10

第5表 長宮遺跡第34地点井戸・土坑・ビット一覧表(単位cm)

井戸	平面形態	確認面径	直径	深さ	備考
井戸1	円形	105×103	62×55	116.8	
井戸2	円形	82×76	53×50	109.1	
井戸3	円形	109×104	82×76	121.2	
井戸4	円形	82×73	52×52	90.8	
井戸5	円形	85×78	21×20	139.2	
井戸6	円形	75×(48)	83×(40)	67.0	
井戸7	楕円形	134×80	63×57	147.7	
井戸8	円形	101×(100)	101×(100)	81.1	
井戸9	円形	77×(86)	73×(100)	97.8	
土坑1					炉穴14に変更
土坑2					炉穴15に変更
土坑3					井戸8に変更
土坑4					欠番
土坑5	円形	65×(47)	43×(40)	19.5	
土坑6	円形	93×84	72×68	57.5	
土坑7	円形	80×(25)	23×9	84.8	井戸9に変更
土坑8	円形	(87)×(83)	(8)×(55)	43.4	
土坑9	円形	(201)×(184)	82×(30)	28.3	
土坑10	円形	88×70	60×42	19.8	
土坑11	不整形	87×90	70×52	69.8	
土坑12	円形	72×71	55×48	18.4	
土坑13	円形	48×42	47×47	48.7	
土坑14	円形	60×55	44×42	74.2	
土坑15	円形	68×63	46×42	60.2	
P1	円形	28×(17)	12×(10)	30.8	

井戸	平面形態	確認面径	直径	深さ	備考
P2	円形	29×25	18×16	28.2	
P3	円形	48×(36)	25×(32)	33.4	
P4	円形	31×27	20×12	35.4	
P5	円形	28×25	12×12	24.3	
P6	円形	27×25	15×10	36.9	
P7	円形	18×18	9×8	21.4	
P8	円形	28×(11)	14×(6)	22.8	
P9	円形	35×34	18×15	24.1	
P10	円形	26×24	14×13	26.0	
P11	円形	20×19	6×6	41.7	
P12	円形	32×28	16×14	34.2	
P13	円形	29×28	16×15	18.8	
P14	円形	36×32	22×22	31.8	
P15	円形	29×(20)	20×(9)	20.8	
P16	円形	25×(12)	15×(6)	37.7	
P17	円形	27×(19)	15×(10)	26.1	
P18	円形	42×38	7×7	15.8	
P19	円形	37×31	11×5	38.9	
P20					土坑15に変更
P21	円形	(45)×43	25×21	29.5	
P22					土坑18に変更
P23					土坑17に変更
P24	円形	15×11	7×6	20.3	
P25	円形	28×18	14×8	12.2	
P26	円形	21×17	7×7	42.8	
P27	円形	18×18	9×5	26.0	
P28	円形	17×16	8×8	16.0	



14. 遺土・ローム上層部

14. 灰黄褐色土 粘質、中黄色褐色を帯びる。20cm未満は粘りロームを少し含む
 15. 灰黄褐色土 粘質、粘り。15層に群れるの中層部のみ
 16. 黄灰色土 粘質、粘質。明黄褐色のローム土は黄褐色土が厚い場合

炉穴1

1. 黄土粒少い層で炉穴1の4層に相当
2. 黄褐色土 粘質、粘り。5層にシロロームの5cm以下層土 焼土粒中やや多く含む
3. 赤褐色土 粘質、粘質。シロロームの焼土粒、5層に黄褐色土少し含む
4. 黄褐色土 粘質、粘質。明黄褐色のローム5cm厚層部あり。5cm以下焼土やや多く含む

炉穴2・4

1. 黄褐色土 粘質、粘質。3cm以下ローム粒中やや多。下層に2層黄褐色土あり。炉穴2は5cm以下焼土少し含む
2. 黄褐色土 粘質、粘質。5cm以下焼土。3cm以下ローム粒中やや多く含む
3. 赤褐色土 粘質、粘質。3cm以下焼土多く含む。黄褐色土
4. 黄褐色土 粘質、粘質。5層に5層以下明黄褐色ローム層部を多く含む

炉穴3

1. 炉穴2の2層に相当。1～3cmローム層部少し含む
2. 炉穴1の1層に相当
3. 赤褐色土 粘質、粘質。黄褐色土主体に1cm以下焼土層部あり。シロロームの焼土を多く含む

炉穴7

1. 炉穴1の1層に相当
2. 黄褐色土 粘質、粘質。上層に明黄褐色ローム土中やや多。3cm以下ローム粒中やや多含む
3. 赤褐色土 粘質、粘質。5cm以下ローム粒多。5層に明黄褐色ローム土多く含む

炉穴9

1. 黄褐色土 粘質、粘質。5層に明黄褐色ローム土中やや多。3cm以下ローム粒中やや多含む
2. 黄褐色土 粘質、粘質。5cm以下ローム粒多。5層に明黄褐色ローム土多く含む

炉穴8

1. 黄褐色土 粘質、粘質。3cm以下明黄褐色ローム粒多。3cm以下焼土少し含む

炉穴12-P27

1. 黄褐色土 粘質、粘質。3cm以下ローム粒少し含む
2. 赤褐色土 粘質、粘質。黄褐色土主体にロームの焼土を多く含む
3. 黄褐色土 粘質、粘質。2cm以下ローム粒少し含む

炉穴13

1. 黄褐色土 粘質、粘質。5cm以下ローム粒少し含む
2. 黄褐色土 粘質、粘質。褐色味が有る。75層にロームの黄褐色を多く。5cm以下ローム粒多含む

炉穴15

1. 黄褐色土 粘質、粘質。5層以下明黄褐色土を含む。5～10cm 焼土・ローム粒少し含む
2. 黄褐色土 粘質、粘質。20cmアスシローム土多。5cm以下焼土中やや多く含む

炉穴23

1. 黄褐色土 5層に明黄褐色土が厚い

土坑14

1. 黄灰色土 粘質、粘質。焼土層部に多く含む。5cm土粒化層部に少し含む

土坑14

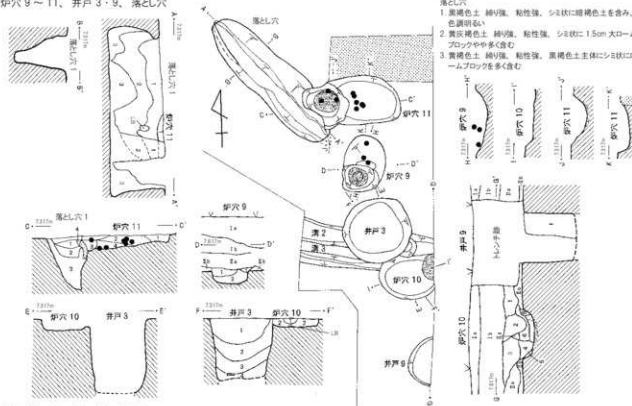
1. 黄褐色粘土 粘質、粘質。20cm赤褐色粘土層部・5cm焼土・5～10cm黄褐色少し含む
2. 黄褐色粘土 粘質、粘質。1層に黄褐色粘土有る。5cm土層・5～10cm黄褐色粘土含む

土坑24・25

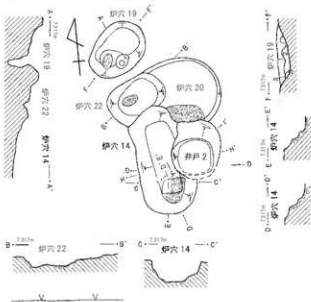
1. 黄褐色土 粘質、粘質。ローム粘土の硬さ含む
2. 黄褐色土 粘質、粘質。1cm以下シロローム少し含む
3. 黄褐色土 粘質、粘質。1cm以下シロロームローム多含む

第9図 長吉遺跡第34地点炉穴①・土坑① (1/60)

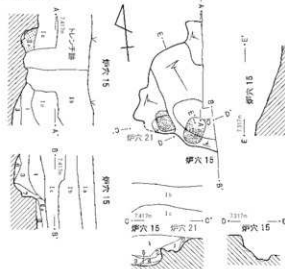
炉穴 9～11、井戸 3・9、落とし穴



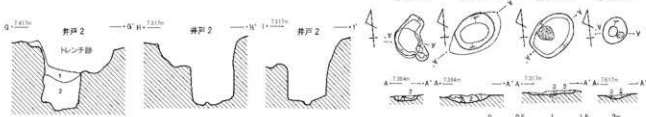
炉穴 14・19・20・22、井戸 2



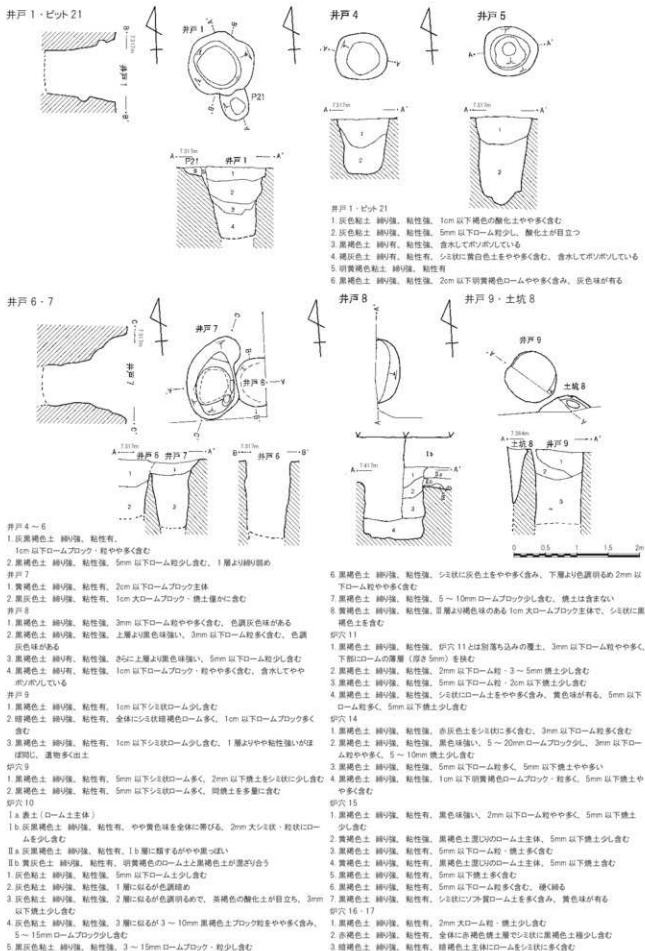
炉穴 15・21



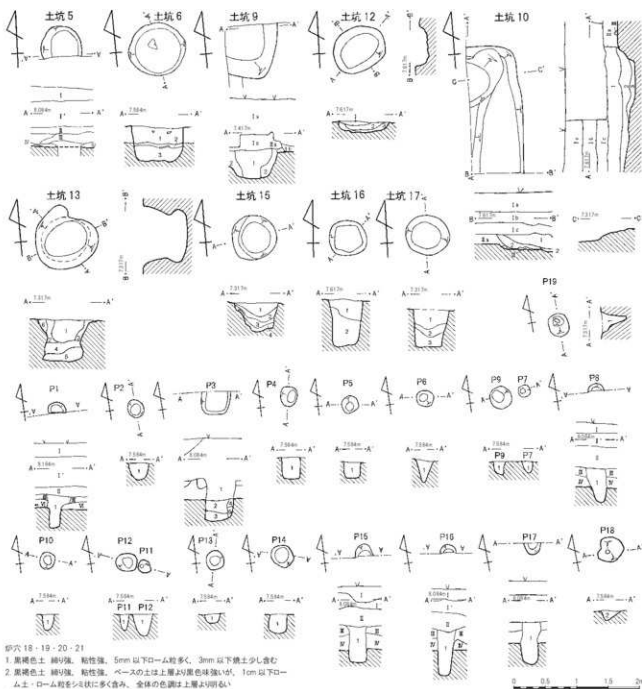
炉穴 16 炉穴 17 炉穴 18 炉穴 24



第10図 長宮遺跡第34地点炉穴②・井戸①・落とし穴 (1/60)



第 11 図 長宮遺跡第 34 地点井戸②・土坑②・ピット① (1/60)



卯穴 18・19・20・21

1. 黒褐色土 粘り強。粘性強。5mm以下ローム粒多く、3mm以下糖土少し含む
2. 黒褐色土 粘り強。粘性強。ベースの土は上層が黄灰色強いが、1cm以下ローム土・ローム粒をシ状に多く含む。全体の色調は上層が明るい
3. 赤褐色土 粘り強。粘性有。糖土。礫土

卯穴 21

- ①卯穴 18の1層に同じ
- ②卯穴 18の1層に同じ

土坑 6

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く含む。1cm以下シ状糖土多量含む
2. 暗褐色土 粘り強。粘性有。粘土層全体が酸化状態で多褐色を呈する
3. 黒褐色土 粘り強。粘性有。5mm以下シ状ローム少し含む。1・2層が粘土質である

土坑 9

1. 黒褐色土 粘り強。粘性強。3mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 粘り強。粘性強。ローム土をシ状に多く含む。黄灰色味がある。2mm以下ローム粒多く含む。明黄褐色粒3cm以下ロームブロック少し含む

土坑 10

1. 黒褐色土 粘り強。粘性強。5mm以下糖土粒。2cm以下灰色粘土を少し含む
2. 黒褐色土 粘り強。粘性強。上層が黄灰色強い。1cm以下褐色土・灰色粘土少し。1cm以下細粒が明黄褐色土粒やや多く含む。縦状を呈する
3. 黒褐色土 粘り強。粘性強。明黄褐色ローム土をシ状に多く含む。縦状を呈する
4. 黒褐色土 粘り強。粘性強。シ状ローム土を多く含む。色調明るい

土坑 12

1. 黒褐色土 粘り強。粘性強。2mm以下ローム粒少し含む。やや黄灰色味がある

2. 黒褐色土 粘り強。粘性強。3mm以下ローム粒やや多く含む

3. 黒褐色土 粘り強。粘性強。シ状に明黄褐色土ロームをやや多く含む土坑 13

1. 黒褐色土 粘り強。粘性強。(粘土ではない) 2mm以下ローム粒やや多く含む

2. 黒褐色土 粘り強。粘性強。(粘土ではない) 2mm以下ローム粒やや多く含む

3. 黒褐色土 粘り強。粘性強。(粘土ではない) 5～20mmロームブロック多く含む

4. 黒褐色土 粘り強。粘性強。(粘土ではない) 2mm以下ローム土・粒を多く含む。黄灰色味がある

5. 黒褐色土 粘り強。粘性強。(粘土ではない) 色黒黄色味強い。3mm以下ローム粒少し含む

6. 黒褐色土 粘り強。粘性強。(粘土ではない) ローム粒は少ないが、黄灰色味がある

土坑 15

1. 灰色粘土 粘り強。粘性強。酸化土を多く含む。2cm以下明黄褐色粘土少し含む。井戸 1の1・2層に似る

2. 黒褐色土 粘り強。粘性強。酸化土層褐色 5mm以下ローム粒。シ状に灰色粘土を多く含む

3. 黄灰色粘土 粘り強。粘性強。5mm以下ローム粒少し含む

4. 黒褐色土 粘り強。粘性強。5mm以下ローム粒少し含む

土坑 16

1. 灰黄褐色土 粘り強。粘性有。1cm以下ロームブロック・粒やや多く含む。P23の1層に似る

2. 黒褐色土 粘り強。粘性強。5mm以下ローム粒少し含む。1層が粘り強。P23の2層に似る

土坑 17

1. 黒灰色粘土 粘り強。粘性強。灰色粘土を主体にシ状に黒褐色土・黄灰色粘土を多く含む

2. 黄灰色粘土 粘り強。粘性強。1cm以上含水して粘り強。1cm以下ローム土シ状にやや多く含む

3. 灰黄褐色土 粘り強。粘性強。シ状に黄灰色粘土を多く含む。やや酸化が目立つ

第12図 長宮遺跡第34地点土坑③・ビット② (1/60)

(7) 溝

溝は4本検出した。試掘調査時に溝1としたものは、J9号住居跡の覆土層である。溝2は溝3より古く、共に近世以降の時期である。溝5は溝3より新しいが、溝2との新旧関係は不明である。

(8) 炉穴、井戸、土坑、ピット、溝出土遺物

【炉穴・井戸出土遺物】(第14図1～26)

1・2は炉穴2出土、3は炉穴3出土、4は炉穴6出土、5・6は炉穴9、7～11は炉穴11出土、12・13は炉穴13、14～16は炉穴14出土、17は炉穴15出土土器である。

1～7、9～13は内外面に条痕文を施し、胎土には繊維を含む、早期後半の条痕文系土器である。3は器厚がやや薄く焼成良好で、胎土に繊維を含むが微妙である。5は厚手の土器で胴部から外反する頸部をへて口縁部に至る。口縁は波状口縁で、口唇部には竹管

状工具による押圧による刻目がみられる。

8はLrの撫糸文を施し胎土に繊維を含まない、早期前半の撫糸文系土器である。

12は口縁部で横位から斜位に条痕文を施す。

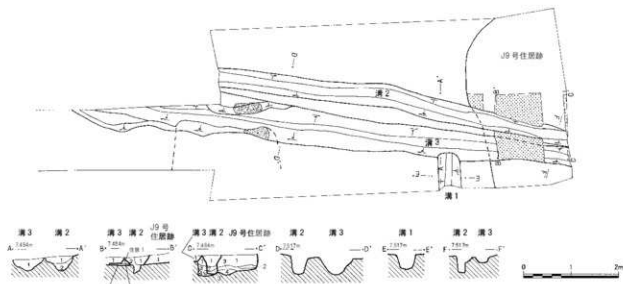
14は軸縄RLに2本のLrを付加する。15は胴部と底部に見込背圧痕を施す。14、15は前期黒浜式か。16は砂岩製の打製石斧片で、重さ110.80gである。17は3段の文様帯がみられ、上段からRLに2本のLrを逆巻方向に付加したもので、中段は組紐LLRR、下段がRL縄文とみられる。前期開山式か。

【井戸・土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物】(第15図27～43)

18は口縁部に小突起を持ちLRとRL縄文で羽状縄文とする。20は上げ底の底部でLR、RL縄文を施す。18、20は開山式である。27は還付末端のLR縄文を施し胎土に繊維を含む開山式土器である。

第6表 長宮遺跡第34地点溝一覧表(単位cm)

No.	断面形態	確認直径	底径	深さ	備考
溝1	U字形	76×46	70×14	377	
溝2	U字形	1410×33～62	1410×12～27	501	
溝3	広いU字形	1315×35～85	1315×10～18	408	
溝4	U字形	223×38～71	223×16～45	399	



溝1

- 黒褐色粘土層 互層に對比し軟弱。粘性有。全体に粘土質で20cm以下シロ状赤褐色酸化鉄多量含む
 - 黒褐色土 1層より暗く大ローム、赤褐色粒多量含む。土層片も少し含む
 - 暗褐色土 1層にシロ状酸化鉄を全体多量含むため、黄褐色を呈するが1層にほぼ同色
 - 黒褐色土 2層に色は同じ、1cm以下赤褐色粘土を少し含む以外は2層と同じ
- 溝2
- 灰色褐色土主体に20cm以下シロ状ローム、赤褐色土、酸化鉄を多く含む
 - 黒褐色土 軟弱。粘性有。灰色褐色土主体に20cm以下シロ状ローム、赤褐色土、酸化鉄を多く含む。1層と2層の間には酸化鉄のシロ状層有り。1層は暗い灰色。20cm以下灰色粘土多量含む
 - 黒褐色土 軟弱。粘性有。1層にほぼ同じ、2・3層の間にはシロ状酸化鉄層有り

ピット1～10

- 黒褐色土 軟弱。粘性有。5層に同じ。暗灰色土主体に、シロ状赤褐色酸化鉄多量含む。10cm以下シロ状暗黄白色土少し含む
- 灰褐色土 軟弱。粘性有。灰褐色粘土にシロ状褐色酸化鉄多量含む

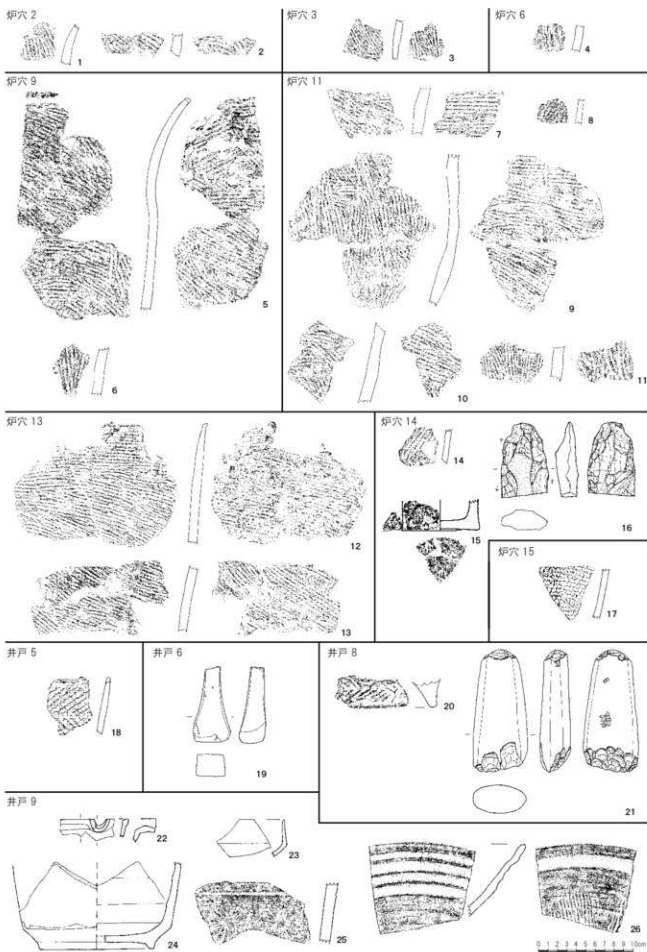
ピット19

- 黒褐色土 軟弱。粘性有。黒色味強い。5cm以下ローム粒多量。5cm以下赤褐色土粒中量多量含む

ピット

- 黒褐色土 軟弱。粘性有。20cm以下ローム粒、酸化鉄多量。10cm以下黒色土多量含む
- 黒褐色土 軟弱。粘性有。全体に暗い灰色(白く見える)を多く含む。ローム粒は1層に同じ

第13図 長宮遺跡第34地点溝(1/80)

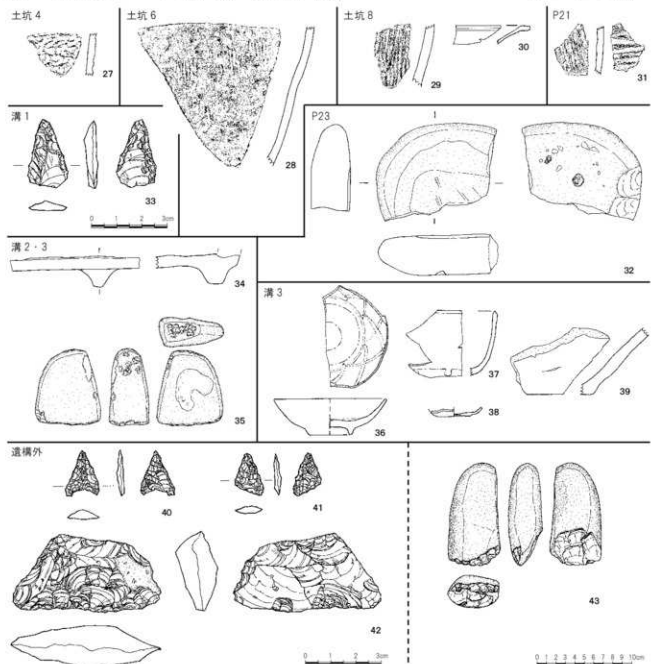


第14図 長宮遺跡第34地点出土遺物① (1/4)

29と31は表裏に糸痕文を施し胎土に繊維を含む早 6・8、ビット23、溝、遺構外出土遺物については
期後半の糸痕文系土器である。井戸6・8・9、土坑 第7表遺物観察表のとおりである。

第7表 長宮遺跡第34地点出土遺物観察表(単位cm・g)

No.	出土 遺物	種別・説明	口径・ 長さ	高さ 幅	重量	胎土	注記・文様・その他	埋定年代	埋定年代
131	井戸6	石製瓦/磁石	—	3.7	2.6	85.8	石質/赤褐色。表面は凹凸が特徴的である	—	—
21	井戸6	石製/磨製石斧	12.9	6.1	3.2	444.8	石質/砂質	—	—
22	—	磁器/瓦片	—	—	0.3	—	緑褐色/片断	瀬戸/赤土	7700~10000年
23	—	磁器/丸筒	—	—	0.3	—	緑褐色/片断	瀬戸/赤土	17500~18500年
24	井戸9	陶器/器	—	12.6	0.6	—	緑褐色/片断	瀬戸/赤土	17000年
25	—	土器/丸筒	—	—	1.5	—	緑褐色/片断	瀬戸/赤土	17000年
26	—	陶器/器	—	—	0.9	—	緑褐色/片断	瀬戸/赤土	18000年
27	土坑6	磨製の磁器/丸筒	—	—	0.9	—	緑褐色/片断	瀬戸/赤土	12.5.赤土
28	土坑6	陶器/器	—	—	0.3	—	緑褐色/片断	—	—
31	P23	石製/石斧	—	—	4.2	353	石質/安山岩	瀬戸/赤土	—
33	溝1	石製/石槌	7.6	1.6	0.4	1.64	石質/黒曜石	瀬戸/赤土	—
34	溝2・3	土製/丸筒/丸筒片	—	—	3.1	—	緑褐色/片断	—	—
35	—	石製/磁石	7.3	6.5	2.8	325.5	石質/砂質	—	—
36	—	磁器/片断/磨製磁石	12	4.3	3.8	—	緑褐色/片断/二重線目文	瀬戸	18500~17700年
37	—	陶器/丸筒	—	—	0.3	—	緑褐色/片断	—	—
38	溝3	土製/片断	—	—	3.3	—	緑褐色/片断	—	—
39	—	磨製の磁器/丸筒	—	—	1.25	—	緑褐色/片断	—	—
40	遺構外	石製/石槌	2.3	1.4	0.4	0.46	石質/黒曜石	—	—
41	—	石製/石槌	1.6	1.3	0.25	0.45	石質/黒曜石	—	—
42	—	石製/石槌	2.2	5.9	1.4	244.8	石質/黒曜石	—	—
43	—	石製/打製石斧	13.9	5.3	3.6	237.05	石質/砂質	—	—



第15図 長宮遺跡第34地点出土遺物②(1/4・2/3)

第3章 長宮遺跡第36地点の本調査

I 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2011年9月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年10月4日から17日まで行った。幅約1.5mのトレンチ8本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、縄文時代とみられる炉跡や、中世以降の井戸、土坑、ピット、溝などを確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは30～40cmと浅いため、遺跡への影響が避けられないことから原因者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。遺構密度の薄い南東部の約1/4を除く部分の本調査を実施した。

本調査は遺構の確認されたトレンチ2～トレンチ5までA調査区、トレンチ6～トレンチ8までをB調査区として、2011年10月21日から11月14日まで、重機により表土層を除去し人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の屋外焼土跡2基、中・近世以降の井戸16基、土坑4基、溝16本、ピット20基である。遺物は縄文時代早期から中期の土器、石器、中・近世以降の陶磁器、石製

品、銭貨、板碑などである。

II 遺構と遺物

(1) 焼土

①焼土1

平面形態は楕円形に近く100cm×(77)cmの浅い皿状を呈する。焼土の南側に平面が円形に近い27cm×22cm、深さ18.6cmのピットがある。焼土の範囲は70cm×64cm、厚さ10cmである。

②焼土2

平面形態は不整形で54cm×45cmでほぼ平坦である。焼土の範囲は37cm×20cm、厚さ5cmである。

(2) 井戸

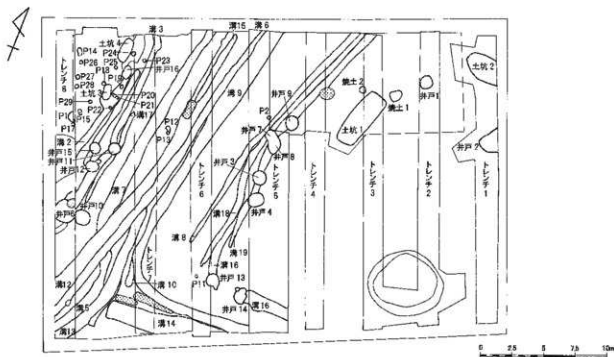
井戸は16基検出した。井戸1・7・10・11・13～15では遺物が出土しているが、特に井戸13からは板碑7点がまとまって出土した。詳細は第8表のとおりである。

(3) 土坑

土坑は4基検出した。土坑1・2は形態と規模から井戸や落とし穴などの可能性も考えられる。詳細は第8表のとおりである。

(4) ピット

ピットは20基検出した。詳細は第8表のとおりである。



第16図 長宮遺跡第36地点遺構配置図 (1/300)

(5) 溝

溝は16本検出した。ほぼ南北方向に延びるが、溝9、16は南北から東西方向に曲がる。溝14は東西方向に延び、断面が逆台形深く堀状を呈する。各溝の詳細については第9表のとおりである。

(6) 出土遺物 (第23図、第24図)

61～84は遺構外出土の縄文式土器である。
61・62は波状口縁の小突起で、61は細沈線、62は細沈線+刺突文列を施す。63は細隆起線の区画内に沈線+刺突文、64は細隆起線の区画内に沈線を施す。65・71は沈線+条痕文、68・69・70は表裏に条痕文を施す。66は竹管状工具の押圧で刻目状のある細隆起線+沈線文を施す。67は隆起線の幅が狭い 括れ部分で上下の区画内には沈線文、66・67は裏面に条痕文を施す。

1～67は早期後半の野島式から鶴方島台式である。72～75・77は前期前半で、胎土に繊維を含み地文はLRまたはLR縄文で、77は無文である。76はLRの木目状縞糸文土器である。78・79は沈線とLR縄文か又はLR縄文の加曽利EⅢ式である。79は沈線とLR縄文か又はLR縄文の加曽利EⅢ式である。80は沈線文を施す。81・82は胎土に雲母を含み、81は押引文、82は隆帯部に押引文を施す阿玉台式である。83は横位沈線文、84は無文浅鉢で中期に含まれる。

85・86は口縁部から頸部に、87は胴部にハケ目を施し、胎土に2mm以下の白色粒子を含む土師器で五頸式である。

その他の土器、石器、陶磁器、鉄貨、石製品、ガラス製品等については第10表のとおりである。

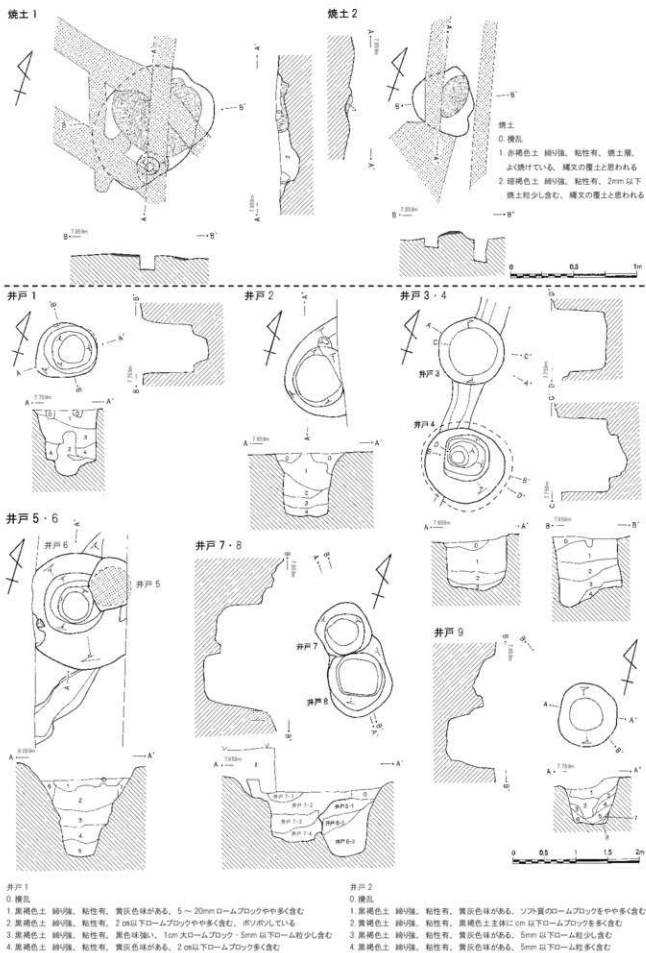
第8表 長宮遺跡第36地点井戸・土坑・ビット一覧表 (単位cm)

No.	平面形状	確認面積	直径	深さ	備考
井戸1	円形	96 × 85	44 × 41	109.2	
井戸2	不明	157 × (91)	73 × 68	110.5	
井戸3	円形	105 × 104	76 × 76	84.9	
井戸4	円形	127 × 117	20 × 18	116.4	
井戸5	不明	80 × (60)	(64 × 59)	-	
井戸6	不明	184 × (150)	42 × 42	154.5	
井戸7	円形	84 × 80	43 × 43	75.8	
井戸8	円形	99 × 98	82 × 55	115.8	
井戸9	円形	101 × 91	54 × 51	75.6	
井戸10	円形	135 × 117	52 × 50	98.8	
井戸11	円形	91 × 86	83 × 82	94.2	
井戸12	円形	101 × 85	56 × 46	98.9	
井戸13	不整形	101 × 101	40 × 32	137.4	
井戸14	不整形	130 × 95	37 × 31	112.6	
井戸15	円形	89 × 78	29 × 27	72.9	
井戸16	円形	67 × 64	34 × 30	37.6	
土坑1	長方形	458 × 165	447 × 143	77	
土坑2	不明	(229) × 160	(190) × 85	99.5	
土坑3	長方形	125 × 61	95 × 46	23.9	
土坑4	長方形	190 × 87	141 × 60	58.3	

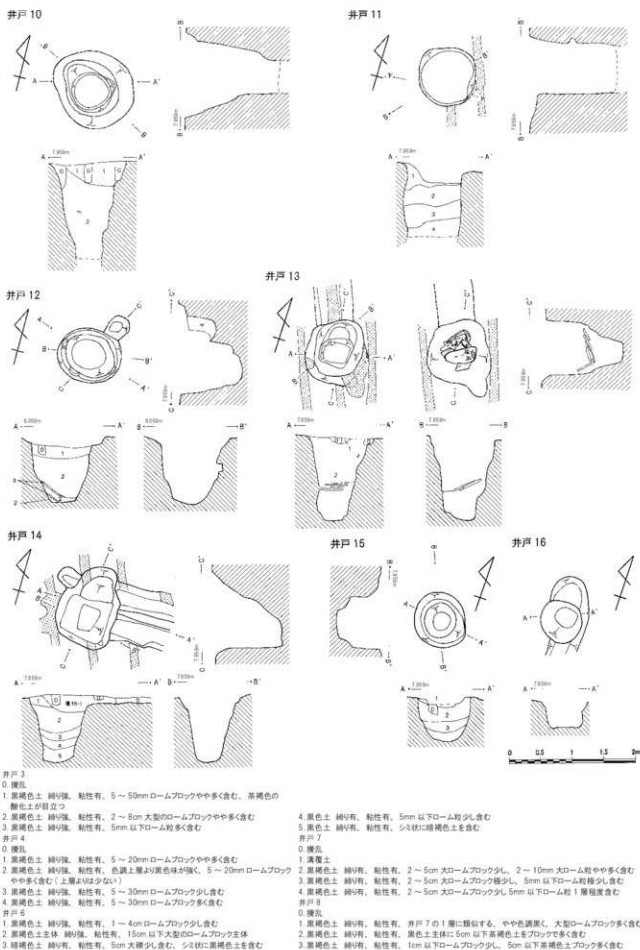
No.	平面形状	確認面積	直径	深さ	備考
P1	不明	60 × (50)	5 × 5	25.6	
P2	方形	33 × 26	10 × 8	32.7	
P11	円形	26 × 26	17 × 16	60.7	
P12	不整形	38 × 27	11 × 10	19.3	
P13	方形	24 × 22	18 × 8	28.9	
P14	方形	58 × 38	34 × 23	36.2	
P15	方形	42 × 27	9 × 8	81.5	
P17	不明	25 × (17)	9 × 8	37.2	
P18	方形	27 × 26	16 × 14	28.9	
P19	方形	26 × 23	13 × 10	26.7	
P20	方形	39 × 27	13 × 13	32.0	
P21	方形	21 × 16	7 × 7	24.0	
P22	方形	24 × 21	14 × 13	30.0	
P23	方形	25 × 24	15 × 9	31.4	
P24	円形	36 × 32	13 × 7	29.4	
P25	方形	24 × 22	3 × 3	51.7	
P26	三角形	31 × 28	11 × 6	68.8	
P27	方形	31 × 29	11 × 7	36.8	
P28	方形	34 × 31	20 × 19	37.0	
P29	方形	25 × 23	10 × 6	49.4	

第9表 長宮遺跡第36地点溝一覧表 (単位cm)

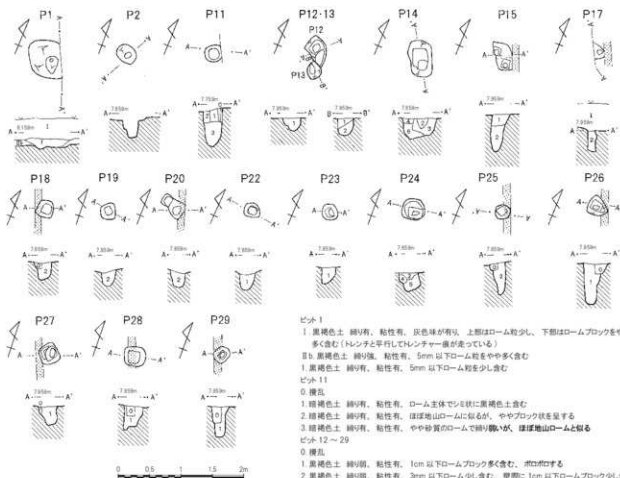
No.	断面形状	確認面積	直径	深さ	備考
溝1					欠部(土坑2に変更)
溝2	浅いU字形		1071 × 42 ~ 128	13.6	
溝3	浅いU字形		1786 × 46 ~ 76	31.5	
溝4					欠部(溝6・12に変更)
溝5・7	浅いU字形		2738 × 50 ~ 110	25.6	溝5と溝7が1本になる
溝6	浅いU字形		2803 × 52 ~ 84	22	旧溝4
溝8	浅いU字形		2140 × 20 ~ 66	33.3	旧溝9
溝9・11	浅いU字形		3225 × 58 ~ 155	32.9	溝9と溝11は同一
溝10	浅いU字形		226 × 60	33.3	
溝12	浅いU字形		2642 × 72 ~ 200	38.6	旧溝4
溝13	浅いU字形		1290 × 80 ~ 136	53.4	白砂レンヂイモビツ
溝14	浅い逆台形		954 × 143 ~ 158	76.4	旧6・カレンヂイモビツ?
溝15	浅い陥形		844 × 33 ~ 60	23	旧6レンヂイモビツ 7b
溝16	浅いU字形		940 × 76 ~ 120	14	
溝17	浅いU字形		809 × 23 ~ 40	9	
溝18	U字形		2130 × 31 ~ 50	36.4	旧溝8
溝19	浅いU字形		2064 × 24 ~ 100	18.7	旧溝8c



第17図 長宮遺跡第36地点焼土(1/30)、井戸①(1/60)



第 18 図 長宮遺跡第 36 地点井戸② (1/60)



ピット 1

1 黒褐色土 締り有、粘性有、灰色縁が有り、上部はローム粒少し、下部はロームブロックをやや多く含む（ナンチと平行してナンチヤードが走っている）

2 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒をやや多く含む

3 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒を少し含む

ピット 11

0 掘削

1 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム主体でシタ状に黒褐色土を含む

2 黒褐色土 締り有、粘性有、山部山ロームに似るが、中ブロック状を足する

3 黒褐色土 締り有、粘性有、やや砂質のロームで締り強いが、埋蔵地山ロームと似る

ピット 12～29

0 掘削

1 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む、赤ロームする

2 黒褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム少し含む、壁面に1cm以下ロームブロック少し含む

3 黒褐色土 締り強、粘性有、締り強く1cm以下ロームブロック多量に、2mm以下ローム粒多く含む

4 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より1cm大ロームブロック少ない以外は同質

5 黒褐色土 締り弱、粘性有、赤ロームのローム主体に、黒褐色土を少し含む

A-A'・B-B' 溝 2

0 掘削

1 黒褐色土 締り弱、粘性有、

2 黒褐色土 締り弱、粘性有、

3 黒褐色土 締り弱、粘性有、1cm大ローム少し、2mm以下ローム粒多量を含む

溝 3

1 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロックやや含む

2 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロック・3mm以下ローム粒多く含む

C-C'

溝 12

1 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

2 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

3 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

4 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

5 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

6 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

7 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

8 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

9 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

10 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

11 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

12 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

13 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

14 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

15 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

16 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

17 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

18 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

19 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

20 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

21 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

22 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

23 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

24 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

25 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

26 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

27 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

28 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

29 黒褐色土 締り有、粘性有、溝の4層に類似するが、ややローム粒が少ない

E-E'・H-H' 溝 13

0 掘削

1 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック多く含む

2 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒を多く含む（2層より下層少し）

3 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm大ロームやや多く、2mm以下ローム粒多く含む

H-H' 溝 5

1 黒褐色土 締り有、粘性有、溝 12 の 2 層に類似、2mm以下ローム粒多く含む

N-N'

1 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体

2 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に2cm大ロームブロックと3mm以下ローム粒多く含む

3 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に3mm以下ローム粒多く含む

4 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

5 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

6 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

7 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

8 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

9 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

10 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

11 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

12 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

13 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

14 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

15 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

16 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

17 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

18 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

19 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

20 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

21 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

22 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

23 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

24 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

25 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

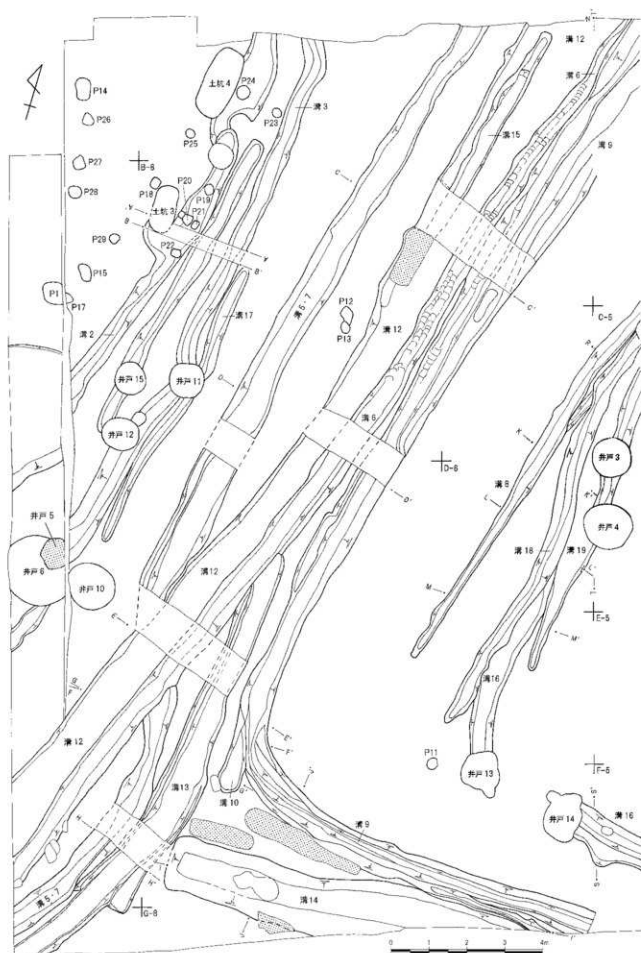
26 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

27 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

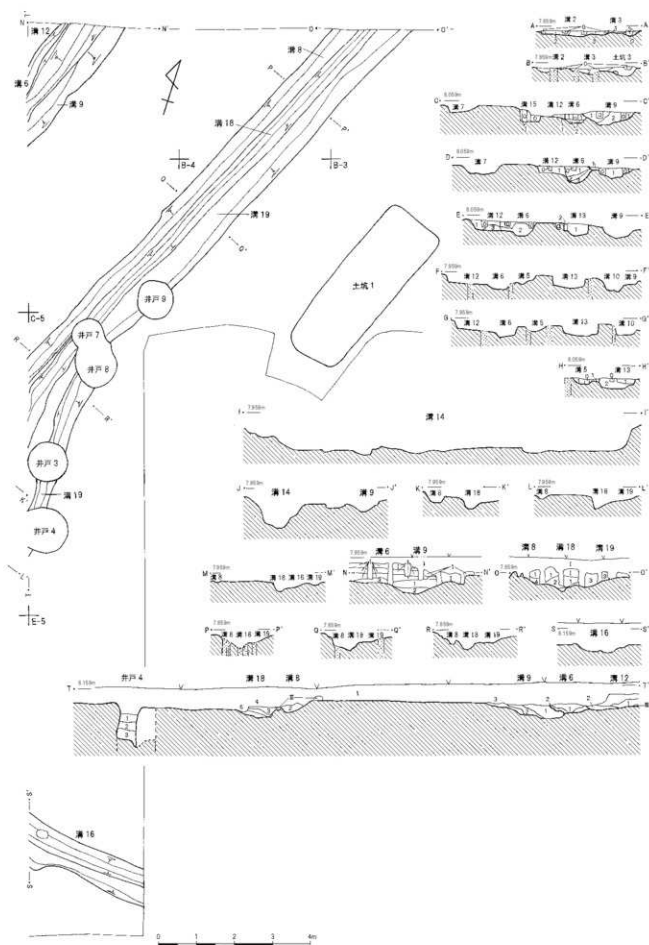
28 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

29 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック・粒を1層程度のみで含む

第20図 長宮遺跡第36地点ピット (1/60)



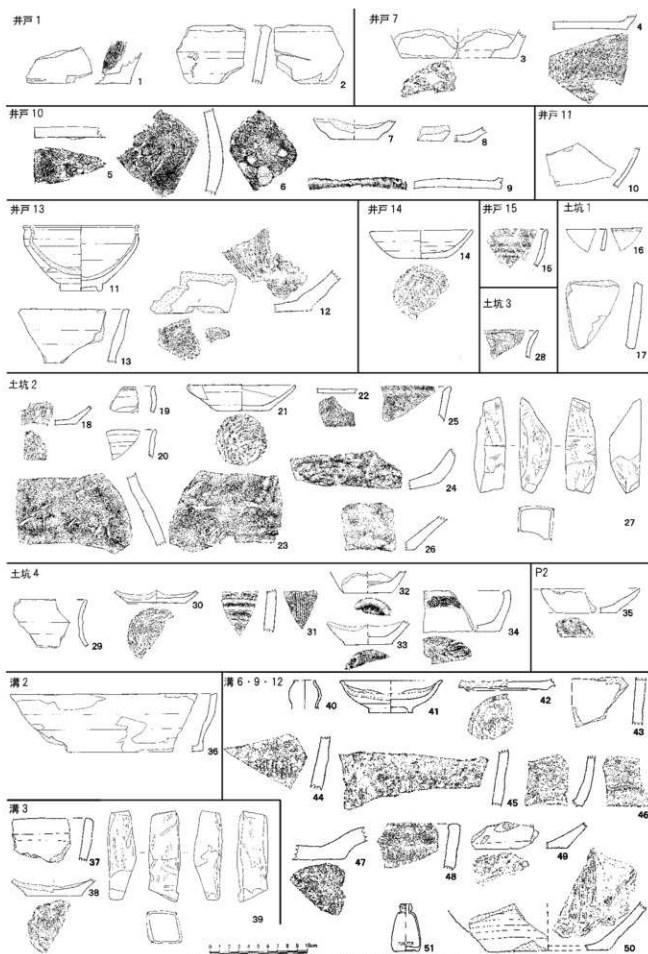
第 21 図 長宮遺跡第 36 地点溝① (1/100)

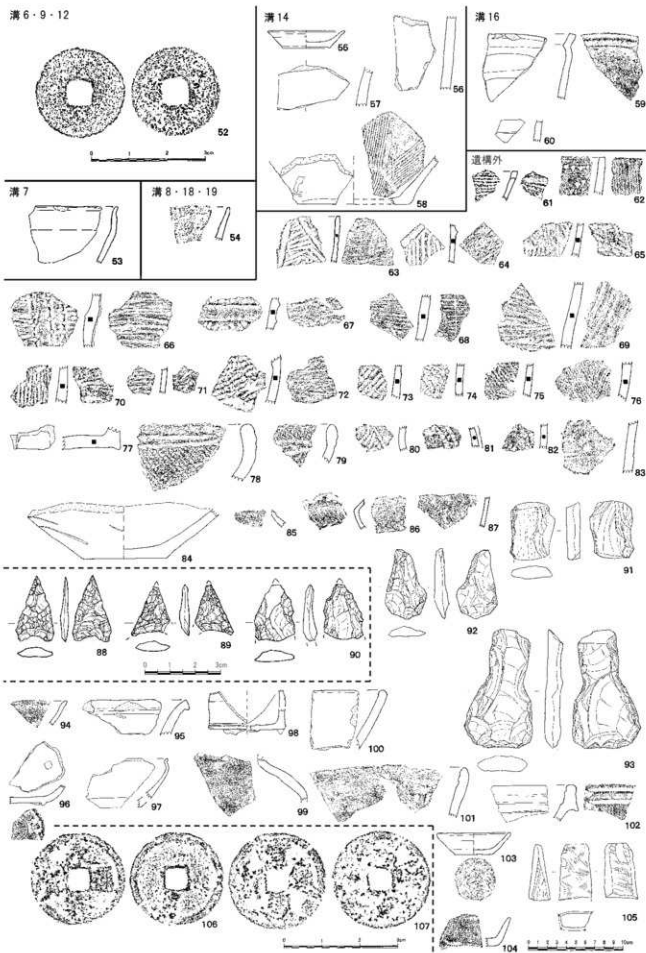


第22図 長宮遺跡第36地点溝② (1/100)

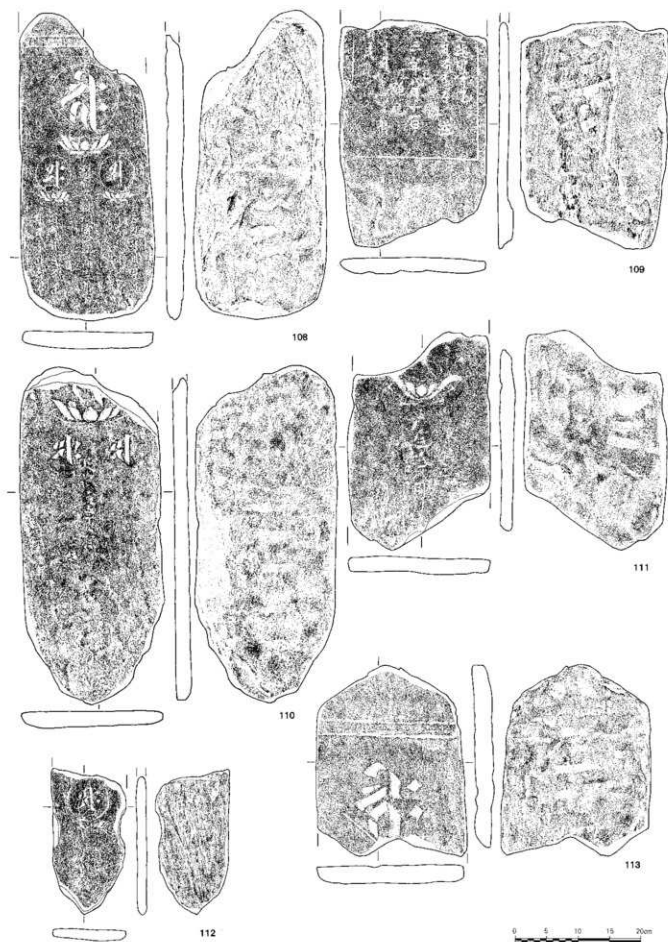
第10表 長倉遺跡第36地点出土遺物観察表 (単位 cm、g)

No.	出土遺物名	種別・部類	口径・長さ	高さ・幅	重量・厚さ	技法・文様・その他	想定年代	想定年代	
1	井戸1	陶器/甕	—	—	1.2	練成灰/瓦葺	瀬戸/赤塗	—	
2		土器(瓦葺)/鉢	—	—	0.95	練成灰/瓦葺	在銘	14c~15c	
3	井戸7	埴輪(瓦葺)/大甕	—	(112.3)	1.05	粘土成形/外・内面は厚化粧・磨れ目	在銘	—	
4		土器/磁瓶	—	—	0.9	輪埴み成形/外・内面に厚化粧・磨れ目	在銘	—	
5	井戸10	埴輪の陶器/大甕、甕形磁石	—	—	1.2	粘土成形/胎土・灰色/外部磨目、磨面磨痕、磁石に転用	厚塗	—	
6		埴輪の陶器/大甕	—	—	1.2	粘土成形/内面に厚化粧/胎土・灰色	厚塗	—	
7	井戸11	土器/かわらけ	—	4.6	0.9	練成灰/胎土・軟質	在銘	—	
8		土器/かわらけ	—	—	1.05	練成灰/胎土・軟質	在銘	—	
9	井戸11	土器/磁瓶	—	—	0.75	輪埴み成形/外面に厚化粧・磨れ目	在銘	—	
10		伊瓶/甕	—	—	0.8	練成灰/胎土・にじみかけ赤灰色	瀬戸?	—	
11	井戸13	陶器/甕/天目輪	(12.3)	4.4	6.9-0.8	練成灰/胎土	瀬戸/赤塗	16c後半	
12		陶器/磁鉢	—	—	1.65	練成灰/胎土/赤切込	瀬戸/赤塗	—	
13	井戸14	土器/磁瓶	—	—	1.1	粘土成形/瓦葺/外面に厚化粧	在銘	16c	
14		土器/かわらけ	10.9	4	2.9-0.8	練成灰/胎土赤灰色、赤灰厚塗	在銘	14c	
15	井戸15	流石器/坪	—	—	0.4	練成灰/炭化の土の堆積	—	—	
16		磁器/甕	—	—	0.3	練成灰/胎土/口縁内・裏面緑	肥前	18c	
17	土器1	陶器/甕、甕形磁石	—	—	1.2	練成灰/胎土、5の心輪、磨面磨痕、磁石に転用	瀬戸/赤塗	—	
18		流石器/坪	—	—	0.65	練成灰/赤切込	瀬戸/赤塗	—	
19	土器2	陶器/土師器	—	—	0.5	練成灰/赤石焼	瀬戸/赤塗	16c後半~	
20		陶器/土	—	—	0.65	練成灰/胎土	瀬戸/赤塗	—	
21	土器3	土器/かわらけ	11.4	5	2.7	練成灰/赤切込	在銘	15c~16c	
22		流石器/坪	—	—	0.45	練成灰/赤切込	—	—	
23	土器4	埴輪の陶器/大甕	—	—	1	粘土成形/胎土・灰色	赤塗	—	
24		埴輪の陶器/大甕	—	—	1.2	粘土成形/内面に厚化粧/胎土・赤黄色/外表面滑、井戸1から同一個体	在銘	—	
25	土器5	土器/甕	—	—	0.7	練成灰/胎土・にじみ磨目	在銘	—	
26		土器(瓦葺)/鉢	—	—	1.25	練成灰/瓦葺	在銘	—	
27	土器6	石製品/磁石	10	2.75	3	石質/炭化層/重量 136.61g	在銘	—	
28		土師器/甕	—	—	0.35	粘土成形/口・口蓋部分に塗層	在銘	—	
29	土器7	土師器/甕	—	—	0.4	粘土成形/口・口蓋部分に塗層	在銘	—	
30		流石器/坪	—	—	6 14×0.5	練成灰/磨面厚化粧	赤塗	—	
31	土器8	陶器/磁鉢	—	—	1	練成灰/胎土	瀬戸/赤塗	—	
32		土器/かわらけ	—	—	(5)	0.7	練成灰/胎土・軟質	在銘	—
33	土器9	土器/土師器	—	—	(5)	0.6	練成灰/胎土・軟質	在銘	—
34		土器/土師器	—	—	0.7	練成灰/胎土(空焼)/磁石同心内文	在銘	—	
35	P-2	土器/かわらけ	—	—	0.65	練成灰/胎土・軟質	在銘	—	
36		土器(瓦葺)/鉢	(44)	(28)	—	0.9	輪埴み成形/瓦葺/外面に厚化粧	在銘	16c
37	土器10	土器(瓦葺)/鉢	—	—	1.1	練成灰/瓦葺	在銘	14c~15c	
38		土器/かわらけ	—	—	6.9	0.75	練成灰/胎土・軟質	在銘	—
39	土器11	石製品/流石器	9.6	3.3	2.55	石質/炭化層/重量 141.35g	在銘	—	
40		陶器/薬入瓶	—	—	0.3	練成灰/胎土	瀬戸/赤塗	—	
41	土器12	陶器/土	(10.7)	4.5	3.4-0.7	練成灰/胎土	—	—	
42		陶器/土	—	—	8.3 0.75	練成灰/胎土/磨目と炭層に目目	瀬戸/赤塗	—	
43	埴輪の陶器/大甕	—	—	1.15	粘土成形/胎土・にじみ磨目	厚塗	—		
44		埴輪の陶器/大甕、甕形磁石	—	—	1.05	粘土成形/胎土・灰色/外表面磨目、磨面磨痕、磁石に転用	厚塗	—	
45	埴輪の陶器/大甕	—	—	0.95	粘土成形/胎土・灰色	厚塗	—		
46		埴輪の陶器/大甕	—	—	1	練成灰/胎土・粘土灰色	厚塗	—	
47	埴輪の陶器/大甕	—	—	1.45	粘土成形/胎土・灰色	赤切	—		
48		土器/甕	—	—	1.1	粘土成形/胎土・2~3mm白色粒を散布、研製褐色	在銘	14c~15c	
49	土器13	土器/かわらけ	—	—	1.05	練成灰/胎土・軟質	在銘	—	
50		陶器/磁鉢	—	—	(112.3)	1.2	練成灰/胎土 12本単位以上	瀬戸/赤塗	—
51	土器14	砂土製品/流石	1.3	3	5	胎土に(TO,HTO)を施す。流石に128、66有	—	—	
52		金属製品/銀貨	2.35	2.35	0.1	材質 銅/長さ 6.8mm/重量 2.53g	—	—	
53	瀬戸15	陶器/甕/天目輪	—	—	0.6	練成灰/胎土	瀬戸/赤塗	16c後半	
54		土器/かわらけ	—	—	0.8	練成灰/胎土・磨目	在銘	—	
55	土器16	陶器/土	(8.1)	(5)	1.9 0.55	練成灰/胎土・磨目、磨面	瀬戸/赤塗	16c後半	
56		埴輪の陶器/大甕	—	—	1.15	粘土成形/胎土・にじみ磨目	厚塗	—	
57	土器17	埴輪の陶器/鉢	—	—	1.05	粘土成形/胎土・灰色	—	—	
58		陶器/磁鉢	—	—	(112)	0.8	粘土成形/胎土 13本単位	瀬戸/赤塗	—
59	土器18	陶器/磁鉢	—	—	0.6	練成灰/磨目有	瀬戸/赤塗	16c~17c 初葉	
60		陶器/磁鉢	—	—	0.55	練成灰/胎土	瀬戸/赤塗	—	
61	石製品1	石製品/石鏝	2.6	1.5	0.3	石質・磨面粗/重量 0.69g	—	縄文時代	
62		石製品/石鏝	2.06	1.2	0.35	石質・磨面粗/重量 0.69g	—	縄文時代	
63	石製品2	石製品/打石片	(2.2)	1.5	0.4	石質・チャート/重量 1.54g	—	縄文時代	
64		石製品/打石片	(5.9)	4.9	1.25	石質・輝綠岩/重量 66.93g	—	縄文時代	
65	石製品3	石製品/打石片	7.4	4.2	1.15	石質・磨面粗/重量 37.69g	—	縄文時代	
66		石製品/打石片	(12.35)	7.2	1.4	石質・チャート/重量 178.04g	—	縄文時代	
67	流石器/坪	—	—	0.4	練成灰/炭化層	瀬戸社	奈良時代		
68		流石器/坪	—	—	1.0	練成灰/灰色	—	奈良時代	
69	土器19	陶器/土	—	—	0.55	練成灰/胎土、磨目、磨面、磨痕の土の堆積を呈す。外面に厚化粧有	瀬戸/赤塗	16c~17c 初葉	
70		陶器/天目輪	—	—	0.7	練成灰/胎土	瀬戸/赤塗	16c~17c 初葉	
71	土器20	陶器/土	—	—	(8.7)	0.6	練成灰/胎土・磨目、磨面、磨痕の土の堆積を呈す。外表面厚化粧有	瀬戸/赤塗	16c~17c 初葉
72		流石器/甕	—	—	0.8	練成灰/自然熟	瀬戸/赤塗	—	
73	土器21	土器(瓦葺)/鉢	—	—	0.9	練成灰/瓦葺	在銘	14c~15c	
74		土器(瓦葺)/甕口鉢	—	—	0.95	練成灰/瓦葺/胎土・磨+灰色	在銘	14c~15c	
75	土器22	陶器/かわらけ	—	—	0.9	練成灰/赤土・磨面・磨痕	肥前、伊賀	15c後半~	
76		土器/かわらけ	7.9	4.0	2.0.5	練成灰/磨面赤切込/色調 暗	在銘	—	
77	土器23	土器/かわらけ	—	—	0.7	練成灰/赤土・磨目	在銘	—	
78		石製品/磁石	(5.9)	3.3	1.65	石質・流石器/重量 44.52g	在銘	—	
79	金属製品/銀貨	—	—	2.5	2.4	0.1	材質 銅/長さ 5.75mm/重量 2.43g(赤染通貫)	明	約1408年
80		金属製品/銀貨	2.55	2.55	0.15	材質 銅/長さ 5.76mm/重量 3.07g(貫通通貫)	明	約1433年	





第 24 図 長宮遺跡第 36 地点出土遺物② (1/4・2/3・1/1)



第25図 長宮遺跡第36地点出土遺物③ (1/6)

第4章 松山遺跡第56地点の本調査

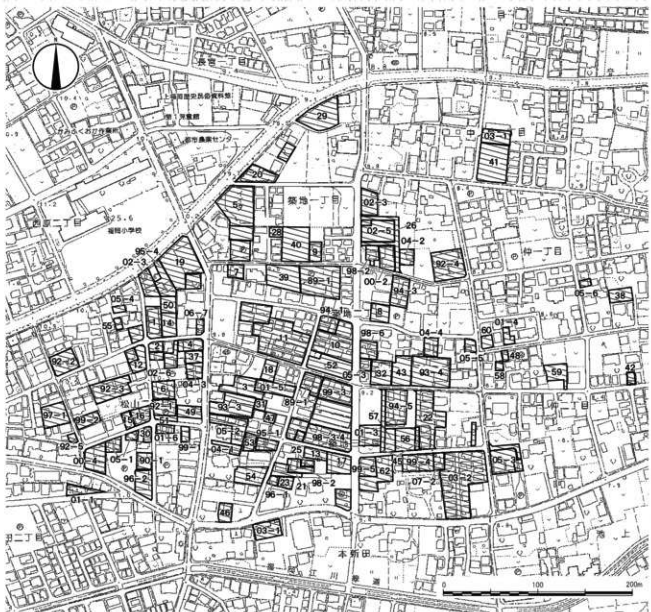
1 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧き水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の豊森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所て調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

2012年には第62地点の試掘調査で、本遺跡で初めて縄文時代中期の住居跡を検出した。江川流域の縄文時代中期前半の集落を考える上でも貴重である。



第27図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第12表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在	調査開始 (平成何年度)	面積(m ²)	調査目的	確認された遺構・物品	所収報告書	地点	所在	調査開始 (平成何年度)	面積(m ²)	調査目的	確認された遺構・物品	所収報告書
1第	松山2-4	1978.10.14～	479	地層調査	環(1)	環(1)	01第1	松山1-2-23.14	(2001.9.12)	894.69	縄文時代	縄文土器	環(24)
2第	松山2-5	1979.4.26～5.1	161	地層調査、土器調査	環(1)	環(1)	02第1	松山1-2-8	(2002.2.20)	715	縄文時代	縄文土器	環(25)
3第	松山3-120	1979.9.7～16	731	地層調査、土器調査	環(1)	環(1)	02第2	松山2-9-35.36	(2002.9.21)	249.09	縄文時代	縄文土器	環(25)
4第	松山2-176B-1	1980.8.13～24	277	地層調査	環(1)、環(1)	環(1)	29第	松山1-2-56B-1	(2002.2.6-8)	39	縄文時代	縄文土器	環(25)
5第	松山1-77E-16	1982.4.20～29	1461	地層調査	環(1)	環(1)	02第3	松山2-9-7	(2002.8.5)	368.57	縄文時代	縄文土器	環(25)
6第	松山2-18	1984.6.13～26	301	地層調査	環(1)、土器	環(1)	02第4	松山1-3-28	(2002.8.20～21)	479	縄文時代	環(1)	環(25)
7第	松山2-3-19	1985.1.13～21	237	縄文時代	環(1)	環(1)	02第5	松山1-3-22.25.30	(2002.8.22～28)	640.69	縄文時代	環(1)	環(25)
8第	松山2-4-12	1986.7.1	310	縄文時代	縄文土器	環(1)	02第6	松山2-6-5	(2002.9.8)	147	縄文時代	環(1)	環(25)
9第	松山1-1+50	1987.10.15～	289	縄文時代	環(1)	環(1)	02第7	本新田1-23	(2003.4.16～21)	1095.69	縄文時代	環(1)	環(25)
10第	松山3-3-4	(1989.8.10)	237	縄文時代	環(1)	環(1)	03第1	松山3-5-3B6.6	(2003.8.19～25)	2576.01	縄文時代	縄文土器	環(26)
11第	松山2-2-11	(1989.6.27～30)	1347	縄文時代	環(1)	環(1)	30第	松山2-2-3	(2003.10.30～11)	142.4	縄文時代	縄文土器	環(26)
12第	松山2-2-9	(1990.9.7～12)	304	縄文時代	環(1)	環(1)	04第1	松山3-1-11.32	(2004.4.22～23)	9.76	縄文時代	環(1)	環(27)
13第	松山2-2-6	1991.10.14～18	400	縄文時代	環(1)	環(1)	04第2	松山3-1-37	(2004.4.26)	191	縄文時代	環(1)	環(27)
14第	松山2-1-10	1991.10.18～21	2039	縄文時代	環(1)	環(1)	04第3	松山2-6-11	(2004.6.16)	300	縄文時代	環(1)	環(27)
15第	松山2-1-11	(1992.4.17～24)	567	縄文時代	環(1)	環(1)	04第4	松山2-9-14.25.27	(2004.6.5)	289	縄文時代	環(1)	環(27)
16第	松山2-2-7	(1992.4.5～16)	571	縄文時代	環(1)	環(1)	04第5	松山3-4-12	(2004.5.6～8)	811	縄文時代	環(1)	環(27)
17第	松山2-3-11	(1992.4.10～28)	381	縄文時代	環(1)	環(1)	05第1	松山2-2-40.49	(2005.4.6～7)	311	縄文時代	環(1)	環(28)
18第	松山3-3-18	1992.5.16～30	234	縄文時代	環(1)	環(1)	05第2	松山1-3-32.34.43	(2005.4.19～21)	549	縄文時代	環(1)	環(28)
19第	松山2-1-17	(1992.5.21～30)	430	縄文時代	環(1)	環(1)	05第3	松山2-9-32	(2005.4.28)	152	縄文時代	環(1)	環(28)
20第	松山2-3-31.33	(1992.6.12～16)	871	縄文時代	環(1)	環(1)	31第	松山3-1-69	(2005.6.14～23)	100	縄文時代	縄文土器	環(28)
21第	松山1-3-17	(1992.6.3～11)	998	縄文時代	環(1)	環(1)	06第0	松山2-9-2	(2006.8.30～9.13)	587	縄文時代	縄文土器	環(28)
22第	松山1-4-32	(1992.10.20)	784	縄文時代	環(1)	環(1)	32第	松山2-9-30.35	(2006.9.9～12)	132	縄文時代	縄文土器	環(28)
23第	松山2-1	(1993.4.5～16)	509.19	縄文時代	環(1)	環(1)	33第	松山2-9-36	(2006.10.31)	125	縄文時代	環(1)	環(28)
24第	松山2-4-1	1993.4.19～28	145	縄文時代	環(1)	環(1)	05第4	松山2-4-23	(2006.10.20～21)	181	縄文時代	環(1)	環(28)
25第	松山3-3-19	1993.5.10～24	507	縄文時代	環(1)	環(1)	06第1	松山1-4-28	(2006.11.14)	93	縄文時代	環(1)	環(28)
26第	松山2-3-43.44	1993.7.2～15	156.75	縄文時代	環(1)	環(1)	06第2	松山2-9-31	(2006.2.28)	100	縄文時代	環(1)	環(28)
27第	松山3-1-73.1	(1993.10.15～20)	994.27	縄文時代	環(1)	環(1)	37第	松山2-6-10.13	(2006.4.13)	228	縄文時代	環(1)	環(28)
28第	松山2-2-20.21	(1993.10.22～26)	1746.63	縄文時代	環(1)	環(1)	38第	松山1-4-13.12.13.24	(2006.5.29)	270	縄文時代	環(1)	環(28)
29第	松山3-1-16	1993.12.17	299	縄文時代	環(1)	環(1)	39第	松山2-3-10	(2007.1.30～20)	321	縄文時代	環(1)	環(28)
30第	松山2-9-9	1994.1.17～23	1531.33	縄文時代	環(1)	環(1)	40第	松山1-1-5	(2007.2.21～5)	1947	縄文時代	縄文土器	環(28)
31第	松山2-2-3	(1994.5.20)	1014.61	縄文時代	環(1)	環(1)	41第	中ノ島1-2-5	2007.2.21～5	1281	縄文時代	縄文土器	環(28)
32第	松山1-1-4	1994.6.24～7.1	1519.17	縄文時代	環(1)	環(1)	42第	松山2-3-10	(2007.2.13)	100	縄文時代	環(1)	環(28)
33第	松山2-4-7	(1994.8.3～12)	832.36	縄文時代	環(1)	環(1)	43第	松山2-7-55.62	(2007.4.11～24)	668.12	縄文時代	環(1)	環(28)
34第	松山3-1-10	(1995.5.10～19)	301	縄文時代	環(1)	環(1)	44第	松山3-2-10.2-14	(2008.6.9～11)	132	縄文時代	縄文土器	環(28)
35第	松山3-2-2	(1995.5.22～)	542	縄文時代	環(1)	環(1)	45第	松山3-4-70.70-1	(2008.10.1～23)	399	縄文時代	縄文土器	環(28)
36第	松山3-3-22	(1995.9.17～20)	1632.3	縄文時代	環(1)	環(1)	46第	環山3-1-33.1	(2009.2.17)	309	縄文時代	縄文土器	環(28)
37第	松山3-3-23	1995.10.17～20	795.53	縄文時代	環(1)	環(1)	47第	松山3-1-32	(2009.5.11.12)	121	縄文時代	環(1)	環(28)
38第	松山2-8-16	(1995.12.22)	411	縄文時代	環(1)	環(1)	48第	松山2-3-34	(2009.7.1)	67	縄文時代	縄文土器	環(28)
39第	松山2-2-1	(1996.7.23～)	489	縄文時代	環(1)	環(1)	49第	松山2-6-11.4.22.9.1	(2009.10.17～22)	449	縄文時代	縄文土器	環(28)
40第	松山1-4-17	(1997.9.11～16)	589	縄文時代	環(1)	環(1)	50第	松山2-9-31.7	(2009.11.27～12.1)	797	縄文時代	縄文土器	環(28)
21第	松山3-4-15.23	1997.12.15～24	419	縄文時代	環(1)	環(1)	51第	松山2-6-22.23.28	(2010.5.10～13)	360	縄文時代	縄文土器	環(28)
22第	松山2-3-12.24	(1998.4.16)	243	縄文時代	環(1)	環(1)	52第	松山2-2-1	(2010.8.28～9.3)	684	縄文時代	縄文土器	環(28)
23第	松山2-3-23.29.32	(1998.4.17, 20)	450	縄文時代	環(1)	環(1)	53第	松山3-1-11	(2010.9.10～21)	200	縄文時代	縄文土器	環(28)
24第	松山3-2-1	(1998.6.20～5.20)	922	縄文時代	環(1)	環(1)	54第	松山3-1-6.76-3	(2010.4.11/5/9/21～10/1)	540	縄文時代	縄文土器	環(28)
25第	松山3-2-24.6.9	1998.9.11～14	122	縄文時代	環(1)	環(1)	55第	松山2-4-24.6.9	(2011.1.17.18～1.31)	226	縄文時代	縄文土器	環(28)
26第	松山1-1-18	(1998.9.17～20)	1837.6	縄文時代	環(1)	環(1)	56第	松山2-3-7.4.7.4.8.9.1	(2011.4.4～15)	241	縄文時代	縄文土器	環(28)
27第	松山3-2-40.41	1998.9.26～21	35	縄文時代	環(1)	環(1)	57第	松山2-7-11.5.19	(2011.8.6～8)	1145.4	縄文時代	縄文土器	環(28)
28第	松山2-9-6	(1998.9.1-4)	681	縄文時代	環(1)	環(1)	58第	松山2-3-7.6.3.7.8	(2011.8.11)	557.7	縄文時代	縄文土器	環(28)
29第	松山3-2-23.29.32	1999.3.3～12	240	縄文時代	環(1)	環(1)	59第	松山2-7-11.5.19	(2012.3.29.27)	163.31	縄文時代	縄文土器	環(28)
30第	松山1-1-2	(1999.4.18)	369	縄文時代	環(1)	環(1)	60第	松山2-7-11.5.19	(2012.3.29.27)	163.31	縄文時代	縄文土器	環(28)
31第	松山2-3-12	(1999.5.6～12)	362	縄文時代	環(1)	環(1)	61第	松山2-3-3	(2012.6.10～12.29)	842	縄文時代	縄文土器	環(28)
32第	松山3-3-14.15	(1999.6.22～24)	779.23	縄文時代	環(1)	環(1)							
33第	松山2-9-15.16.17.18.19.20.21	(1999.6.2-6)	1455.1	縄文時代	環(1)	環(1)							
34第	松山3-3-28	(1999.8.26-9.1)	331.3	縄文時代	環(1)	環(1)							
35第	松山1-3-21	(2000.1.11～6.2)	627.9	縄文時代	環(1)	環(1)							
36第	松山1-3-25.27.28	(2000.5.17～25)	687.3	縄文時代	環(1)	環(1)							
37第	松山2-1-10.11	(2000.6.12～7.3)	919	縄文時代	環(1)	環(1)							
38第	松山2-2-5	(2000.10.26)	367	縄文時代	環(1)	環(1)							
39第	松山3-1-28	(2001.2.2-13)	614	縄文時代	環(1)	環(1)							
40第	松山2-1-8.17	(2001.3.21)	1749	縄文時代	環(1)	環(1)							
41第	松山2-4-10.1	(2001.4.12～13)	244	縄文時代	環(1)	環(1)							
42第	松山3-4-10	(2001.5.10～15)	305.93	縄文時代	環(1)	環(1)							

注：*上掲の市教育委員会文化財課調査による。上掲表：上掲の市教育委員会報告書による。右掲：上掲の市教育委員会報告書による。市内：松山市内の遺跡調査報告書。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は集合住宅建設に伴うもので、原因者より2011年3月7日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年4月6日から15日に行った。幅約1.5mのトレンチを5本と、幅約2mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、土坑や溝などを確認した。遺跡確認までの深さは約50cmで、遺跡への影響が避けられないため申請者と再度協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2011年4月11日から15日まで行い、掘立柱建物跡とみられるピット13基、土坑1基、溝2本などを検出した。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。

III 遺構と遺物

本地点で新たに確認された遺構は土坑と掘立柱建物跡の可能性のあるピットである。H35号住居跡の一部を再確認したが、「市内遺跡群6」2011.10で既に報告済みであるため、今回は平面の範囲を確認したのみで、再検出は行っていない。

(1) 土坑

土坑は1基検出した。調査区中央部の南寄りに位置する。平面形態は隅丸の方形を呈する。規模は南北200cm×東西220cm、深さ65.6cmである。底面は5～10cmの貼り床状を呈する。覆土層からは多数の須恵器や土師器片が出土する。

(2) ピット (掘立柱建物跡)

ピットは調査区の南部と東部に集中しておりピットの一部は掘立柱建物跡の可能性がある。

ピット1・3～5・10は、東側に隣接する第45地点の調査で、3号掘立柱建物跡(P1～4)としたものの続きと考えられる。

ピット2・5・11～13・16で一棟、ピット6～8で一棟と考えられる。各ピットの詳細は第10表のとおりである。

(3) 溝

調査区の中央部を東西に横切り、東側に隣接する第45地点に延びる。第45地点の調査で溝9・10とし

たものの続きである。

(4) 出土遺物 (第31図1～19)

1～5は、須恵器蓋。肩部に回転削り痕あり。1～3・6・7は白色針状物質を多量に含む。1はほぼ完形。径14.0cm、高3.5cm。色調灰褐色。胎土は精錬され1mmほどの石英、黒色粒子を多量に含む。2・3は小破片。4は、1/2現存。径14cm、高3.3cm。胎土の小砂利は3mm程度でやや大きい。

5は、1/4現存。(推)径14.5cm、高3.3cm。色調青灰色。器面は滑らかで、胎土はよく精錬されている。6～8は須恵器蓋の破片で、いずれも1/6から1/8が現存。灰褐色で白色針状物質を含む。このうち6の口唇部が他とは違い、先端が平坦に作り口径も推定であるが、16cmと大きい。

9は、高台付き環。1/2現存。口径14.2cm、高台径8.3cm、器高4.7cm。底部から直線的に体部が立ち上がる。高台内側の底面中央に回転系切り痕あり。高台の貼り付け、底面周辺のみぞり痕が著しい。

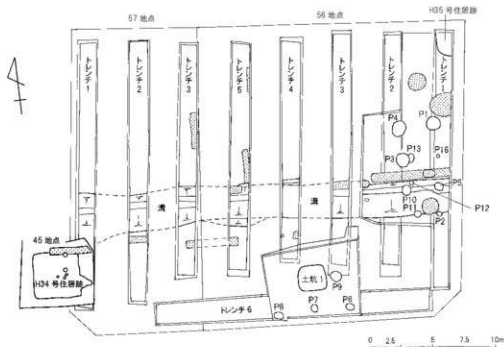
10～12は須恵器環。10は1/6現存。口径13cm、底径完存で7.6cm。色調茶褐色。黒粒子・白色針状物質を多量に含む。底部は手持ちへら削り。11は完形。径13.2cm、底径8.2cm、器高4.1cm。回転系切りの後、手持ちへら削り、周辺を2回転のへら削り。口唇部外側に重ね焼きによる、青黒い自然釉がかかり、その下部は茶褐色である。12は完形、径13.0cm、底径7.2cm、器高3.6cm。回転系切りの後、周辺部幅2.5cmの回転へら削り。石英4mmから1mmが多量に混じる。

13は口径1/3現存13.6cm。底部完存8.5cm。器高3.8cm。白色針状物質を多量に含む。回転系切りの後、周辺部幅2.5cmの回転へら削り。体部表面は、下段にロク口痕跡が強く表れ、先端は外湾する。体部内面に煤が付着し灯明皿に使用されたものと思われる。

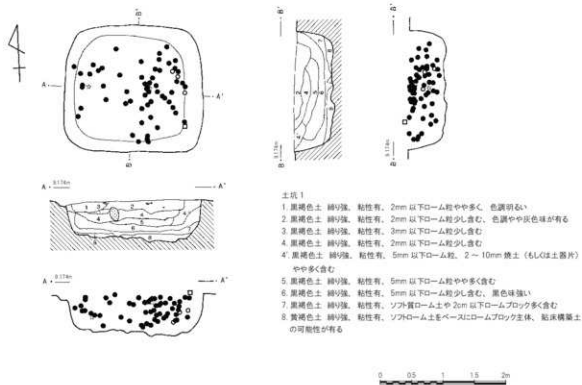
14は、須恵器環の底部で墨書痕がみられる。白色針状物質を含む。(財)埼玉埋蔵文化財調査事業団で赤外線撮影したところ「入」と読めそうであったが、入りの又の下に「=」のような記述がある。

15は須恵器蓋の破片か。青灰色で器面は滑らかで、石英5mmなどを含む。

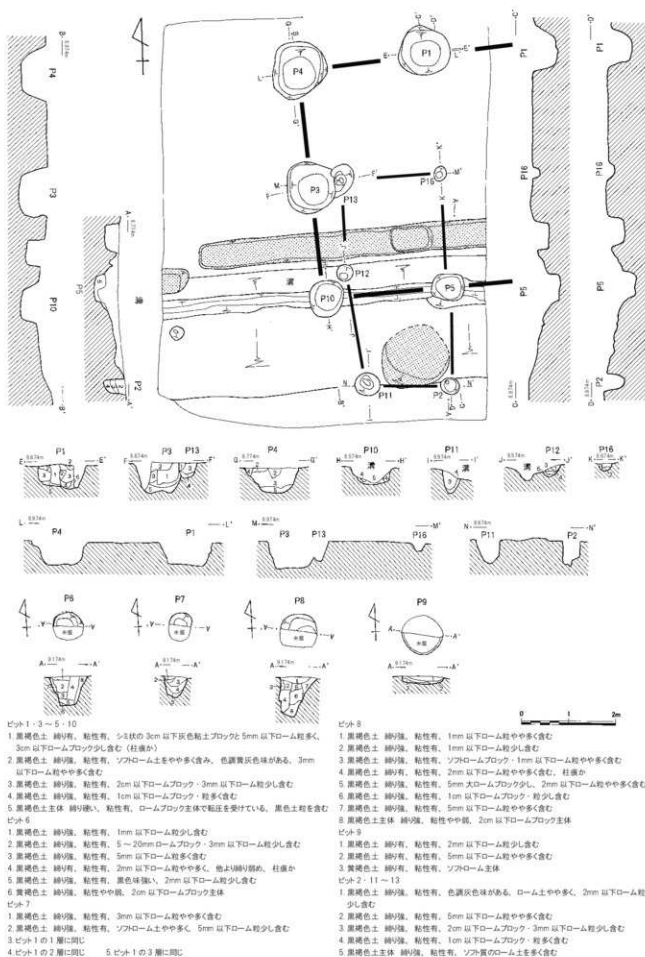
16は、須恵器の獣脚部分である。獣脚のつく本体は不明。脚の接合面から割られたもので、接合面は、10cmに及ぶことから、本体の高さは10cm以上になろう。脚は、正面・側面とも非常に鋭利な工具で面取り。正面の面取りは幅1cmほどで狭く5回以上、側



第 28 図 松山遺跡第 56・57 地点遺構配置図 (1/300)



第 29 図 松山遺跡第 56 地点土坑 1 遺物出土状況図 (1/60)



第30図 松山遺跡第56地点掘立柱建物跡・ピット・溝 (1/60)

面は1回である。足の指の表現を加えている。面取り後、先端をえぐり指の表現をし、さらに、鋭利な工具で、線を加えて長い指としている。指数ははっきりしないが5本で右足のようなものである。

17は、管状土錘の破片である。直径1.1cm、重さ1.79gで、両端部共に欠損している。

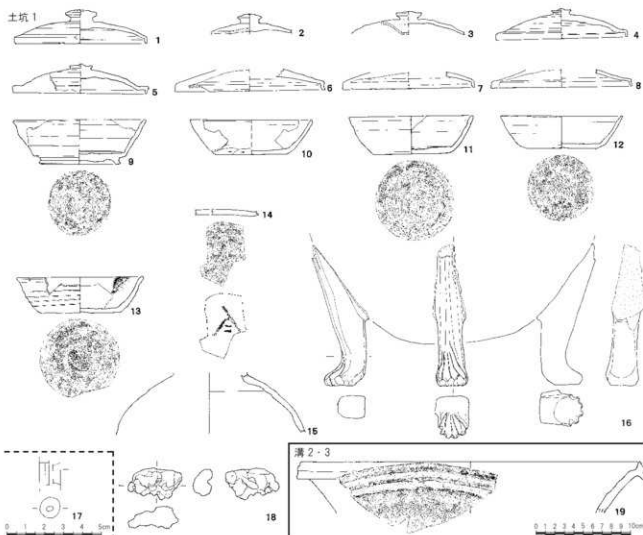
18は、鉄滓である。表面に土が付着している。重さ38.30g、長さ5.8cm、厚さ2.3cm、時期は不明。

19は須恵器壺形土器の破片で、現存1/8、推定口径36cm。頸部表面に櫛歯工具による波状文が施され、櫛歯は8本である。

土坑出土遺物は、獸脚が目目される。須恵器杯の口径が13～14cmで、底部の調整は、回転糸切り後周辺部へラ削りが施されているもので、8世紀第4四半期を中心としたものであろう。(笹森健一)

第13表 松山遺跡第56地点土坑・ピット一覧表(単位:cm)

No.	平面形態	確認面積	直径	深さ	備考
土坑1	方形	220 × 199	175 × 167	65.6	
P1	円形	109 × 103	64 × 54	54.9	
P2	円形	42 × 34	7.5	52.0	
P3	楕円方形	110 × 89	70 × 64	60.5	
P4	楕円方形	120 × 114	68 × 68	53.4	
P5	円形	68 × 56	54 × 49	25.6	
P6 (楕円方形)	65 × (31)	35 × (17)		71.0	
P7	不明	46 × (26)	28 × (14)	46.7	
P8 (楕円方形)	75 × (35)	39 × (12)		83.9	
P9 (楕円方形)	86 × (43)	79 × (38)		18.3	
P10	円形	76 × 70	58 × 55	36.2	
P11	円形	53 × 46	18 × 7	59.8	
P12	円形	34 × 34	17 × 13	25.1	
P13	不明	86 × (40)	15 × 8	43.8	
P16	円形	30 × 25	14 × 13	16.9	



第31図 松山遺跡第56地点出土遺物(1/4・1/2)

第5章 西ノ原遺跡第150地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

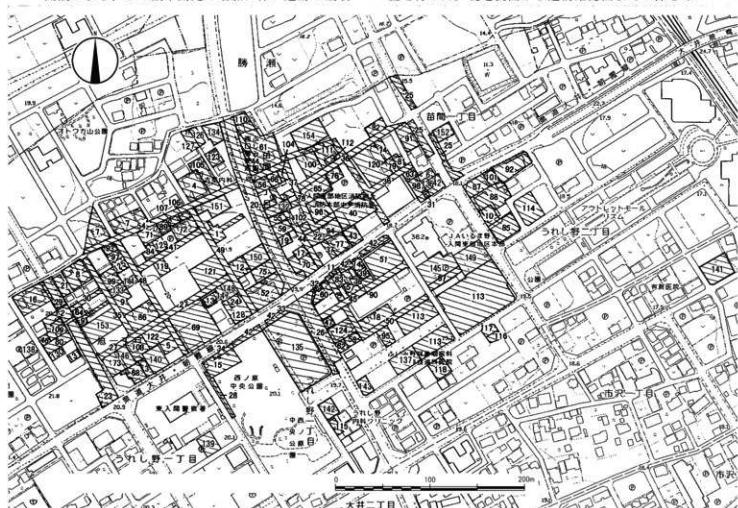
周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禪寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊

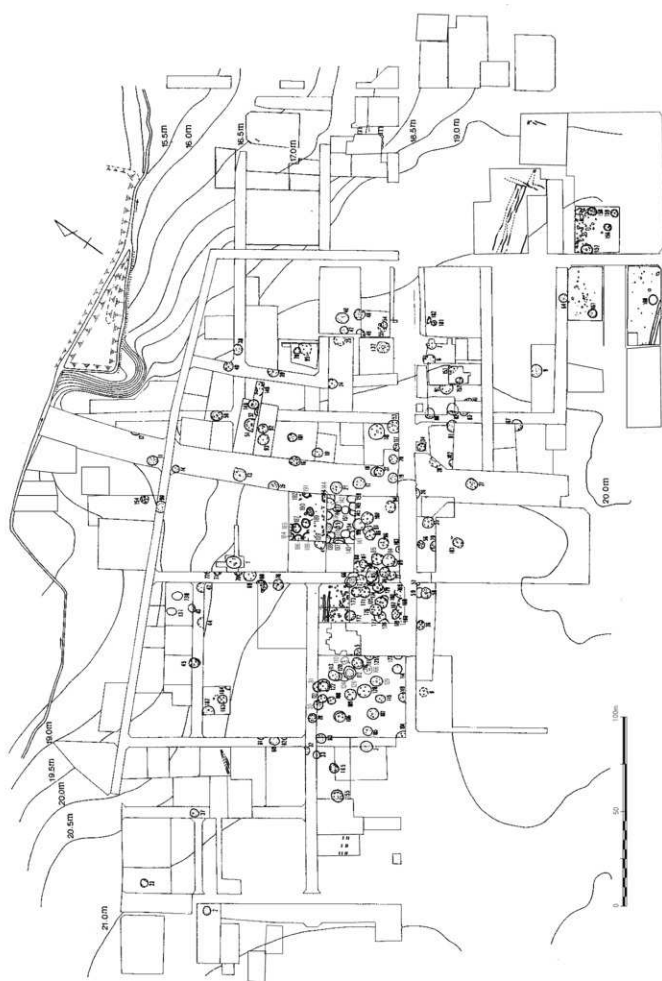
が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2013年12月現在で158地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、200軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 本調査に至る経過と調査の概要

申請地は西ノ原遺跡の中央部に位置するため、2012年1月16日付けで、原因者より宅地造成に伴う「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年1月23日から2月16日まで、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から遺構確認面までの深さは



第32図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第33図 西ノ原遺跡構分布図 (1/2,000)

30～50 cmで、縄文時代中期の住居跡12軒の他、土坑2基、ビットらしきブランを多数確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

試掘調査の結果、原因者と再度協議を行い原因者負担による本調査を実施した。本調査の範囲は、開発区域内に築造される道路部分である。

本調査は2012年2月20日から3月4日まで、重機により表土を除去し、人力による調査を行った。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代中期住居跡12軒（うち3軒を本調査）、竪穴1基、集石土坑2基、ビット35基である。遺物は縄文時代早期末から中期の土器、石器などである。

Ⅲ 遺構と遺物

(1) 住居跡

① 189号住居跡

調査区中央部に位置する。試掘調査で住居の南側半分を検出、さらに道路部分に掛かる住居跡の東側半分を検出した。なお平成12年度の調査で北西側1/4を検出し、ほぼ住居跡全体を検出した。

【形状・規模・時期】平面形態は円形から楕円形を呈する。規模は上端(4.2)×(4.0)m、深さは26cmを測る。住居跡の時期は加曽利EⅢ期である。

【炉】住居中央部に位置する。平面形態は楕円形で北側の底部が被熱し焼土となっている。ビット12と重複するがビット12が新しい。規模は確認面径(52)×56cm、底径(44)×44cm、深さは10cmである。焼土範囲は29×18cmである。

【柱穴】主柱穴は配置と深さからP1～5・13である。P12は炉より新しいため本住居跡に伴うものか不明である。ビットの詳細は第16表ビット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】住居床面から覆土層にかけて土器片や石器が出土するが、復元可能なものはない。

【189号住居跡出土遺物】(第38図1～11)

1は黒緑深鉢の口縁部で隆帯による楕円形区画を配し、隆帯に円形の刺突がみられる。胎土には雲母を含む。2は隆帯の区画内に沈線文と沈線間に連続刺突を施す。3は波状口縁で沈線の区画内に縦位の沈線文を施す。4・6は地文R L 縄文に沈線間を磨り消し、6は沈線の懸垂文間を幅広く磨り消す。5は地文条線で口唇部直下に横位の沈線を施し、その間は磨り消す。

7は無文の浅鉢、8は器台で穿孔がみられる。9は砂岩製の切目石鉢で先端部に1ヶ所、下部部に2ヶ所の切込みがみられ、重さ23.54gである。10は焼き粘土塊で重さ61.81gである。11はホルンフェルスの打製石斧で重さ60.07gである。1は阿玉台I b～II、2・8は勝坂Ⅲ、3～6は加曽利EⅢ、7は不明である。

② 190号住居跡

調査区中央部、189号住居跡の西側2.8mに位置する。

【形状・規模・時期】平面形態は楕円形を呈する。規模は上端4.36×3.02m、深さは21.6cmである。住居跡の時期は加曽利EⅢ期である。

【炉】住居中央部やや北よりに位置する。平面形態は楕円形で南側の底部が被熱し焼土となっている。規模は確認面径88×56cm、底径79×51cm、深さは26.3cmである。焼土範囲は44×31cmである。

【柱穴】柱穴はP1～9である。ビットの詳細は第16表ビット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】住居床面から覆土層と、炉の覆土層からまとまった土器片や石器が出土するが、復元可能なものは少ない。

【190号住居跡出土遺物】(第38図12～38)

12・13は同一個体の口縁部文様帯と胴部文様帯を沈線で配する。口縁部文様帯は楕円形区画、胴部文様帯は「冂」字状の区画を配し、区画内の地文はL R 縄文である。14は地文L R 縄文で沈線の懸垂文間を磨り消す。15は波状口縁で、口唇部に隆帯で長楕円形区画を配し、頸部から胴部の地文は燃糸文を施す。16は沈線文を施す。17は口縁部で、地文燃糸文に2本組みの隆帯で横「S」文様を配する。18は波状口縁の波頭部で隆帯の区画内にL R 燃糸文を施す。19・20は隆帯の区画内に沈線を巡らす、地文はL R 縄文。21は口縁部直下に列点文を巡らせ、沈線の区画内にL R 燃糸文を施す。22は地文L R 燃糸文に2本組隆帯の懸垂文と斜位の隆帯を貼り付ける。23は地文条線文に横位の隆帯から2本組み半隆帯の懸垂文を施す。24は地文R L 縄文に幅広い沈線間を磨り消す。25・26は地文条線で、25は連弧文とみられる沈線文を施す。27は地文L R 燃糸文に隆帯の蛇行懸垂文を貼り付ける。28は地文に沈線で2本組の懸垂文を施す。29は地文縄文、30は地文条線文に沈線の懸垂文を施す。31～33は浅鉢の口縁部で内外面に赤

色の塗彩を施す。35・36は浅鉢の胴部で内面に赤色の塗彩を施す。32・33は同一個体とみられる。34は浅鉢の底部、37は深鉢の底部である。38は細粒砂岩製の打製石斧で重さ83.36gである。12～14・19・20・24は加曽利EⅢ、15・17・18・22・23・27は加曽利EⅠ、16は勝坂、21・25は連貫文系、28～30は加曽利EⅡで、それ以外も加曽利EⅠ～Ⅲに属する。

③ 191号住居跡

調査区東部に位置する。道路部分に掛かる住居跡の西側半分を検出した。東側半分は調査区外に延びるが、区画整理事業に伴う発掘調査では確認されていない。住居南側で埋裏を検出したが、がは確認されなかった。【形状・規模・時期】平面形態は半円形を呈する。規模は上端(3.92)×(2.2)m、深さは22.5cmである。住居跡の時期は加曽利EⅢ期である。

【埋裏】住居内の南部に位置する。平面形態が円形の土坑に加曽利EⅢ式土器を正位に埋設する。底部から胴部上半まで残存するが、口縁部は耕作などの掘削により欠損する。掘り方の規模は確認直径33×28cm、底径8×8cm、深さは14cmである。

【柱穴】柱穴は4本検出したが、主柱穴は配置と深さからP1・2とみられる。ピットの詳細は第16表ピット一覧表のとおりである。

【遺物出土状況】住居中央部のP2・3周辺と埋裏周辺で、床面から覆土層にかけて土器片が出土する。

【191号住居跡出土遺物】(第39図39～58)

39は地文R L 縄文に3本組み沈線の懸垂文を施し、沈線間を磨り消す。40は口縁部の突起である。41は地文縄文に沈線の区画内を広く磨り消す。42は地文縄文に微隆起線文と沈線を施す。43は4本の沈線の懸垂文で、沈線間は丁寧に磨り消す。44は無文の口縁部である。45は波状口縁の波頂部で隆帯と沈線で渦巻文を配する。46は口唇直下の沈線間に列点文を施す。47は頸部に環状の把手と、半截竹管の内側による半隆帯による区画文を配し、中に沈線文を施す。48は隆帯を貼り付ける。49は地文条線に隆帯文の懸垂文を貼り付ける。50は地文燃糸文に隆帯を貼り付け、52は地文L r 燃糸文に沈線文を施す。51は地文R L 縄文、53は地文R L R 複節斜縄文で、沈線の懸垂文は磨り消す部分もみられる。54は地文縄文で幅広の懸垂文は磨り消す。55・56は地文燃糸文で幅広の懸垂文は磨り消す。57・58は底部付近で57は地文条線である。

39・43・45・53・54は加曽利EⅢ、41・42は加曽利EⅣ、40・47は勝坂、50・55・56は加曽利EⅠ、46・52は連貫文系、49・57は曾利系である。

(2) 炉穴

炉穴は調査区の中央部に位置し、190号住居跡と重複し本遺構が古い。焼土等の硬化面はみられないが、住居跡より古く、覆土層に焼土粒および炭化物が多く含まれるため炉穴とした。また本調査区周辺では縄文時代早期の炉穴が多数検出されている。

平面形態は楕円形で、規模は確認直径116×84cm、底径95×64cm、深さは24.6cmである。

(3) 集石土坑

集石土坑1は調査区の東部、191号住居跡の南側に位置する。集石土坑2は調査区中央部、190号住居跡の北側に位置する。時期についてはともに縄文時代中期とみられる。詳細については第17表西ノ原遺跡第150地点集石土坑出土礫観察表のとおりである。

【集石土坑1出土遺物】(第39図59～75)

59は口縁部の突起で接合部は橋脚状を呈す。60は細い隆帯を貼り付ける。61は地文R L 縄文、62はL r 縄文を施す。63は沈線の区画内に条線文を施す。64は刻目隆帯脇に沈線を巡らせ、区画内に沈線文を施す。65は刻目のある低い隆帯を境に燃糸文と沈線文を施す。66は地文縄文に刻目隆帯と沈線文、67は燃糸文、68は地文縄文に細い隆帯を貼り付ける。70は沈線間に磨り消しを施す。69・71は地文縄文に沈線文を施す。72は沈線の区画内に条線文を施す。73は燃糸文、74は条線文を施す。75は口縁部の環状把手で低い隆帯脇に沈線を施す。

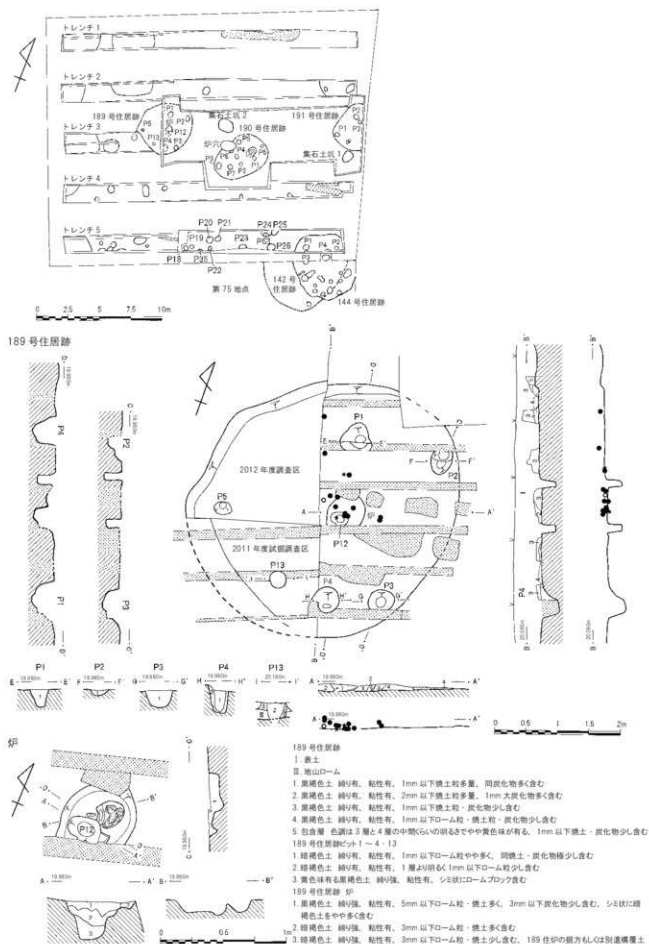
60・65・66は勝坂、64は勝坂Ⅱ、75は加曽利EⅠ、その他は加曽利EⅡ～Ⅳである。

【集石土坑2出土遺物】(第39図76～82)

76・77は地文L r 燃糸文、79は地文縄文を施す。78は地文縄文に沈線を、80は地文縄文に沈線間を磨り消す。81は沈線の懸垂文、82は地文縄文の底部付近である。76～82は加曽利EⅠ～Ⅲである。

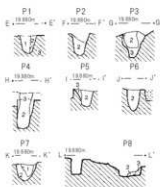
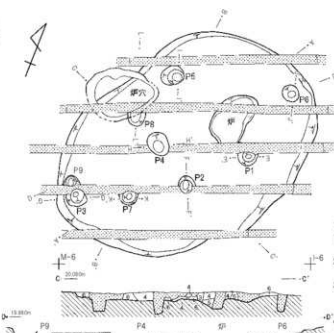
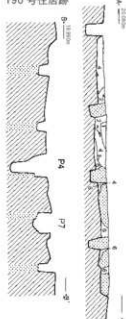
(4) 遺構外出土遺物(第39図83～85)

83は隆帯と沈線で口縁部区画を配し、中にL R 縄文を施す。84無文、85は2本組みの沈線の懸垂文を施す。83～85は加曽利EⅡ～Ⅲである。



第34図 西ノ原遺跡第150地点遺構配置図(1/300)、189号住居跡(1/60)、炉(1/30)

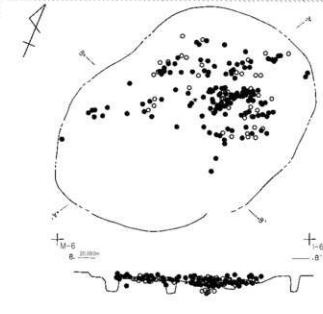
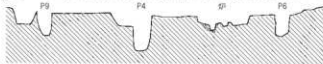
190号住居跡



190号住居跡

1. 黒色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・焼土やや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、4層より黒色味強く、ラッパ状に2cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む
4. 黄色味ある黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、3cm以下焼土・炭化物少し含む
5. 黄色味ある黒褐色土 締り強、粘性有、4層に似るが、3mm以下ローム粒多く含む、色調明い
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、シロ状ローム土を多く含む

遺物出土状況図



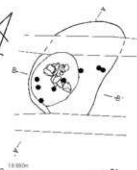
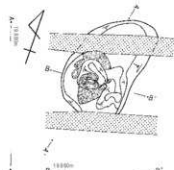
190号住居跡ピット1-8

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、焼土多量含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む(1層より少ない)
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体にシロ状に1cm以下黒褐色土・ローム粒少し含む



炉

遺物出土状況図



190号住居跡 炉

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下シロ状ローム・1mm大ローム粒極少し、2mm以下焼土粒多く含む
2. 黒褐色土+赤褐色土 締り有、粘性有、5mm以下シロ状ローム・ローム粒極少し、3mm以下焼土粒多量に含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下シロ状黒褐色土・1mm大焼土粒少し含む



第35図 西ノ原遺跡第150地点190号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)

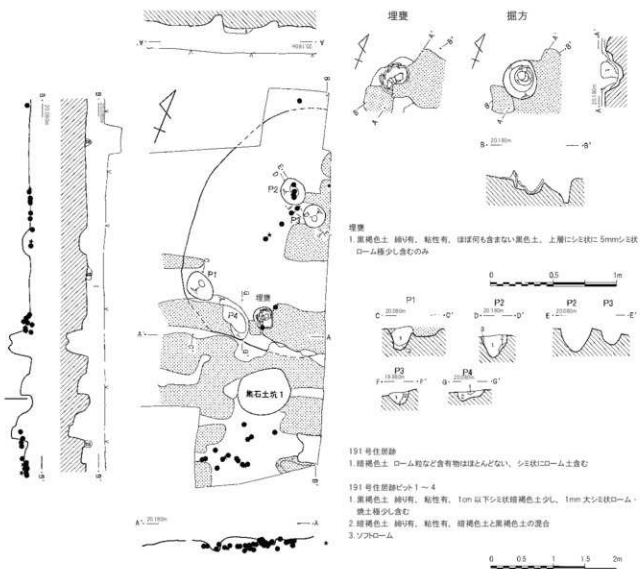
第16表 西ノ原遺跡189～191号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形状	積込量(m ³)	底径	深さ	備考
189B-P1	平形	49 × 44	15 × 12	36.9	
189B-P2	円形	25 × 34	16 × 12	25.0	
189B-P3	円形	41 × 21	16 × 15	29.0	
189B-P4	円形	43 × 41	15 × 6	35.0	
189B-P5	楕円形	28 × 21	11 × 10	27.1	
189B-P12	楕円形	27 × 19	14 × 11	23.1	
189B-P13	円形	27 × 25	—	25.0	
190B-P1	平形	33 × 23	10 × 7	30.1	
190B-P2	平形	29 × 26	14 × 10	39.6	
190B-P3	楕円形	50 × 31	8 × 7	41.8	
190B-P4	円形	39 × 33	19 × 15	59.6	

No.	平面形状	積込量(m ³)	底径	深さ	備考
190B-P5	円形	35 × 31	15 × 13	34.1	
190B-P6	円形	28 × 24	14 × 10	48.5	
190B-P7	平形	30 × 22	8 × 8	29.0	
190B-P8	平形	29 × 20	15 × 15	14.4	
191B-P1	円形	48 × 37	12 × 6	39.8	
191B-P2	円形	45 × 37	19 × 10	36.4	
191B-P3	円形	36 × 34	10 × 10	30.2	
191B-P4	平形	175 × 39	44 × 25	11.2	

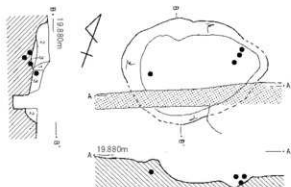
第17表 西ノ原遺跡第150地点集石土坑出土礫観察表(単位cm・個数・g(%)

集石No.	平面形状	積込量(m ³)	底径	深さ	埋藏量	総重量	平均直径	礫重量	空石個数	実石個数	実石重量	空石重量	空石個数	空石重量	空石重量割合
1	平形	92 × 81	15 × 10	29.2	93 × 57	337	7,007.42	29.3	208(8,736)	28(1,224)	491(2,683)	180(79,32)	28(1,653)	199(8,837)	
2	楕円形	130 × 87	74 × 46	38.3	100 × 67	69	10,729.91	44.53	43,682.32	28(3,748)	27(39,13)	42,008.71	31(4,483)	38(5,07)	



第36図 西ノ原遺跡第150地点191号住居跡・ピット(1/60)、埋葬(1/30)

炉穴



190号住居跡 炉穴

1. 黒褐色土 粘り有、粘性有、20cm以下ロームブロック少し、1mm未満ローム粒多く、同様土粒少し、同炭化物粒少し含む、全体に赤色帯びる
2. 暗褐色土 粘り有、粘性有、1mm未満ローム粒多く、同様土粒少し、同炭化物粒少し含む、全体に赤色帯びる
3. 暗褐色土 粘り有、粘性有、20cm以下ロームブロック全体に、1mm未満ローム粒少し含む、粘土・炭化物含まない

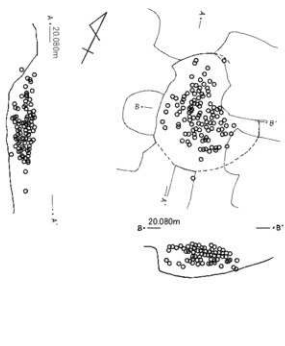
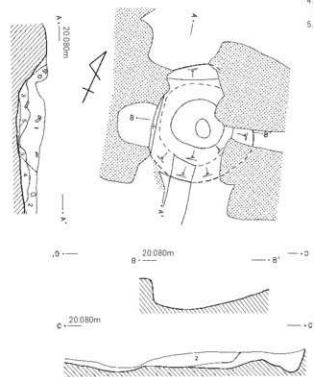
集石土坑1

1. 黒色土 粘り有、粘性有、硬多く含む、1mm以下粘土粒少し、ローム・炭化物粒少し含む、20cm以下シタ状黒褐色土を下部に多く含む
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、1層より明心、1mm以下ローム粒・粘土・炭化物粒少し含む
3. 黒褐色土 粘り有、粘性有、2層より明心、1mm以下ローム粒・粘土・炭化物粒少し含む、2cm以下シタ状ローム少し含む
4. 黒褐色土 粘り有、粘性有、2層より明心、ローム粒・粘土・炭化物ほとんど含まない、ソスロームより黄色で土器・練含む
5. 暗褐色土・黒褐色土 3層よりローム多く含む、ローム粒・粘土は3層より少ない

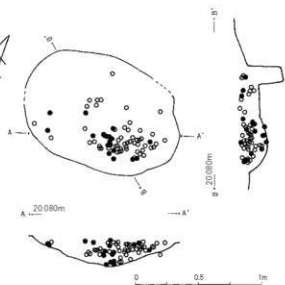
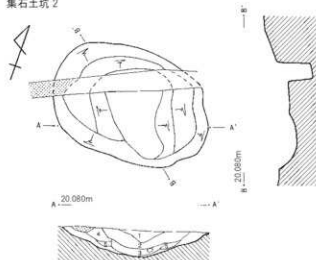
集石土坑2

1. 黒褐色土 粘り有、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、2mm以下ローム粒・5mm以下炭化物やや多く含む、シタ状にロームが混在し色調が暗い
3. 黒褐色土 粘り有、粘性有、3mm以下ローム粒・シタ状ローム土を多く含む、黄色味強い
4. 暗褐色土 粘り有、粘性有、黄色味の有る黒褐色土に、シタ状の20cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒・炭化物やや多く含む
5. 暗褐色土 粘り有、粘性有、2mm以下ローム粒や多く、2mm以下炭化物少し含む

集石土坑1

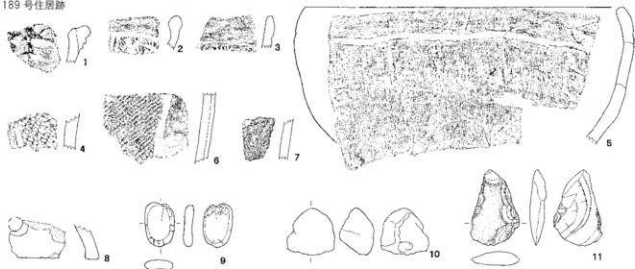


集石土坑2

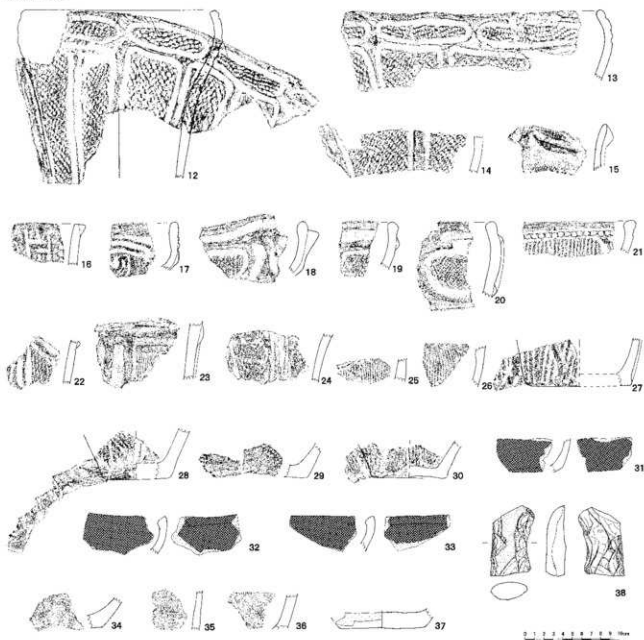


第37図 西ノ原遺跡第150地点炉穴・集石土坑1・2 (1/30)

189号住居跡

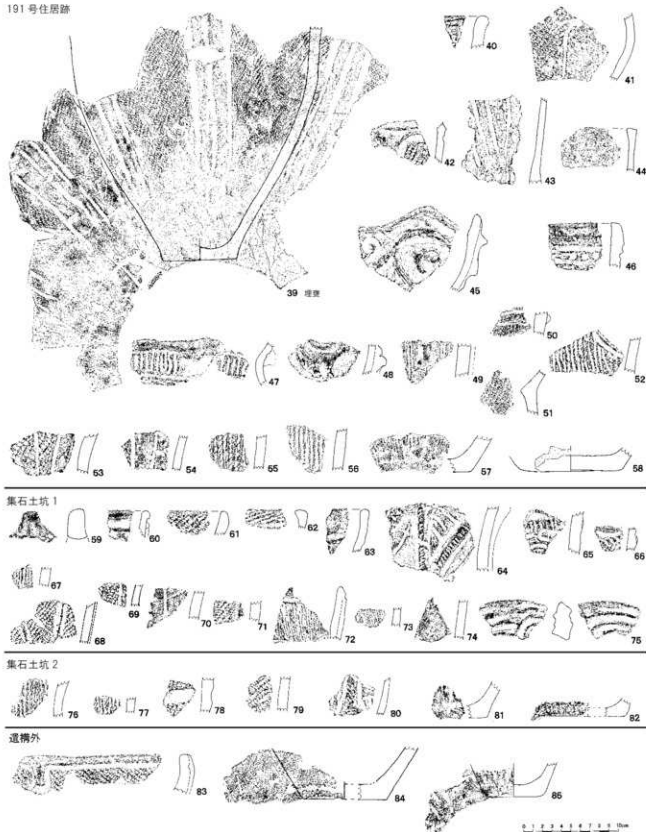


190号住居跡



第38図 西ノ原遺跡第150地点189・190号住居跡出土遺物①(1/4)

191号住居跡



第 39 図 西ノ原遺跡第 150 地点 191 号住居跡集石土坑・遺構外出土遺物② (1/4)

第6章 まとめ

2011(平成23)年度の埋蔵文化財調査は、63件の試掘調査のうち、15件の本発掘調査を実施した。本発掘調査の内訳は、個人住宅に伴うもの8件、公共工事1件、民間開発6件である。

民間開発に伴う本発掘調査のうち、4件の報告を本書に掲載した。開発種別の内訳は分譲住宅2件、共同住宅と宅地造成に伴うものが各1件である。

以下、本書に掲載した報告の内、時期別に主な遺構と遺物について概観する。

【縄文時代】長宮遺跡第34地点の調査で、縄文時代早期の炉穴15基を検出した。各遺構から、胎土に繊維を含む貝殻炭痕文系土器が出土しており早期後半のものと思われる。特に注目されるのは、炉穴12としたものである。炉穴の周囲に、「コ」の字状に直径2～10cmで深さ2～7cmの小ピット73基を配する。祭祀的または調理・加工施設的な遺構の可能性が考えられる。西ノ原遺跡第150地点でも早期とみられる炉穴を1基検出したが遺物は出土していない。

縄文時代前期では、長宮遺跡第34地点で関山Ⅰ式の住居跡1軒を確認し、全体の約60%を検出した。関山式土器は、昭和12年に山内清男先生が上福岡貝塚から発掘し、重要文化財に指定されている片口土器が有名で、現在も上野の国立博物館に展示されている。しかし近年では、長宮遺跡で関山式期の住居跡が相次いで検出されている。分布を見ると、長宮水川神社の北側あたりに湧き水源をもち、南東方向に流れ新河岸川に合流する小河川がかつては存在しており、その右岸沿いに広がる。小河川の作り出す微高地上に分布するものと考えられる。滝遺跡の位置する左岸方向では現在の所は確認されていない。今後も新たな住居跡の発見に期待するとともに、関山Ⅰ式、Ⅱ式の時間的な分布による集落の広がり等も検討して行きたい。

今回のJ9号住居跡は消失堅穴建物の可能性も考えられる。また住居覆土層の白色・灰色の粘土層は、2013(平成25)年度に調査した第44地点J16号住居跡でも類似する粘土層がみられ、同時期における何らかの自然現象が、堅穴建物の覆土層の堆積に影響した可能性が考えられる。河川を原因とするものか、または細文海進等の影響によるものか、堆積物の分

析を行うなど今後の課題としておきたい。

中期では、西ノ原遺跡第150地点で11軒の住居跡を確認し、3軒(189～191号住居跡)を本書に掲載した。2軒は加曾利EⅢ期でもう1軒も加曾利EⅡ～Ⅲ期とみられる。西ノ原遺跡ではこれまで、200軒を超す中期の住居跡が確認されている。全体として双環状を呈する集落配置も、中期初頭から前葉は西側に分布しその後東側に移動する傾向がみられる。

【古代】松山遺跡第56地点では8世紀後半の土坑1基と掘立柱建物跡2棟を検出した。うち1棟は隣接地の第45地点で調査した3号掘立柱建物跡と同一である。土坑1からはまとまった須恵器が出土し、中でも獸脚(第31図16)は市内で初めての出土である。胎土に海綿状骨針を含むため南比企産と考えられる。松山遺跡第15次調査では9世紀初頭の須恵器の鉄鉢も出土しており、集落の性格を考える上でも興味深い。

【中近世】長宮遺跡第34地点では井戸9基を検出した。井戸9から出土した遺物は、18世紀以降の時期である。溝は17世紀以降の近世期である。

長宮遺跡第36地点で井戸16基、土坑4基、溝16本、ピット20基を検出した。井戸や土坑からは陶磁器の他に、板碑や石製品などが出土した。7基の井戸と土坑2から出土した陶磁器の年代は14世紀から16世紀後半までで、溝は14世紀から17世紀初頭までの時期である。井戸13から7点の板碑が重なるように出土した。年代の分かる板碑は1340年から1469年の間であるが、井戸の使用年代かどうか不明である。本調査区周辺で検出した井戸は、第30地点の井戸8から近世の軒瓦が出土する以外は、近世陶磁器が出土していない。第30地点は第36地点の北側約20mに位置し、井戸7基、溝2本等を検出し、井戸2からは板碑2点が出土した。今回の調査成果とはほぼ同様の傾向がみられ、板碑と井戸の埋没課程(廃棄)に何らかの意図が感じられる。第30・36地点の溝は土層の堆積状況などから近世期の遺構と考えていたが、井戸と近い時期の遺構である可能性が高い。

最後に、本書に掲載した遺跡の開発関係者の皆様、各地権者の皆様には発掘調査から整理作業、報告書刊行に至るまで、埋蔵文化財に対するご理解と費用負担にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。